

西九州大学

# 令和6年度 自己点検評価報告書

令和7年5月

西九州大学 点検・評価運営委員会

## 目次

1. FD委員会	2
2. 大学院FD委員会	3
3. 大学院研究科	4
4. 健康栄養学科	5
5. 社会福祉学科	7
6. スポーツ健康福祉学科	10
7. リハビリテーション学科	13
8. 子ども学科	15
9. 心理カウンセリング学科	18
10. 看護学科	22
11. デジタル社会共創学環	29
12. 教務委員会	30
13. 共通教育運営委員会	31
14. 教職課程委員会	32
15. 学生支援委員会	33
16. 入試広報委員会	34
17. 図書館	35
18. リカレント教育・研究推進本部	36
19. 国際交流センター	37
20. 情報メディアセンター	39
21. ダイバーシティセンター	40
22. SD委員会	42
23. 教職センター	43
24. 事務局	44
25. 総合評価	46

## 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者    ◎印は優先事項    達成度は x /10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
FD委員会 (委員長)	<p>◎教育の質転換に関するFDの実施</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教学IR活動・アクティブラーニング等に関するFDを実施して全教職員による実効性ある活動として根付かせる。</li> <li>・学修到達度の可視化のためのFDを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教学IR活動・アクティブラーニング等に関するFDならびに学修到達度可視化のためのFDは実施していない。</li> </ul>	0
	<p>◎教育の質保証に関するFDの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教学マネジメントに関するFDを実施し、教学マネジメント体制の整備・充実を図る。</li> <li>・卒業生からの意見を集約するため、学生支援課と連携しての卒業調査実施に向けて調査を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12/12(木)「西九州大学・西九州大学短期大学部の組織の改編について」と題して副学長による合同SD・FDを開催した。具体的には「教員の一元化」「裁量労働制の導入」「基幹教員制度の導入及びメニュー2の紹介」「各学部等・各学科の適正数及びカリキュラムの見直し」の4点についてであり、中長期的な学園方針について教職員への理解を促した。</li> </ul>	10
	<p>◎学生による授業評価</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価に関する学生の実施率80%を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・80%達成までには至っていないが講義時間内での調査回答の増加により実施率が上昇している。</li> </ul>	8
	<p>○学生の学修実態調査を実施し、回答率の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の負担軽減による回答率向上と他大学との比較を目的として学修実態調査(教務課実施)と学生生活実態調査(学生支援課実施)をIRコンソーシアムの調査に統合し、一本化する検討がなされ、次年度から実施することとなった。</li> </ul>	7
	<p>◎大学教育の流れ及び教員の要望に応じたFDの実施</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教育の流れ及び教員の要望に応じてFD研修会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会に提案された各学科からの要望に沿って、8/1(木)「ダイバーシティに係る研修会」と題して、合理的配慮における他大学の事例や課題についてFDを行った。</li> </ul>	10
<p>◎他大学とのFDの実施</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学と合同のFDを実施し、課題・解決策の共有化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11/14(木)「留学生支援における課題と解決策」と題してFDを実施し、3大学の事例や課題を共有し、留学生支援の理解を深めた。</li> </ul>	10	
		当該委員会 達成度集計	45/60
		達成度平均点	75/100

## 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度はx/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
大学院 FD委員会 (研究科長)	<p><b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b> ◎大学院主催FD研修会の計画・実施する(継続)。</p>	<p><b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b> ◎大学院主催FD研修会で「脳を科学する」のテーマで記念講演・シンポジウムを実施した(遠隔で学部・院教職員、学生に呼びかけた)。過去最高の90名が参加した(大学院生を含む)</p> <p>私立大学等改革総合支援事業タイプ2「特色ある高度な研究の展開」において大学院主催FD研修会が採択</p>	<b>10</b>
	<p>◎院生による授業評価の継続実施と授業へのフィードバックシステムを検討する(継続)。</p>	<p>◎院生による授業評価の継続実施と授業へのフィードバックシステムを検討した(今年度は前期、後期に分けて授業へのフィードバックを実施)。</p>	<b>6</b>
		当該委員会 達成度集計	16/20
		達成度平均点	80/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者    ◎印は優先事項    達成度は x/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
大学院研究科 (研究科長)	<b>基準1. 使命・目的等</b> ≪各学科・研究科の強み、特色の明確化≫ 【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 ◎QSP（九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム）健康・医療・福祉分野：生活習慣病予防事業への調査・研究を推進する。（継続）  【1-4 研究活動への反映】 ◎教員・院生の研究活動の活性化を図る。科学研究費等外部資金への応募数、採択数の増加を目指す（継続）。  ○地域生活支援学専攻博士後期課程院生の国際学会発表を推進する。	【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 ◎QSP（九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム）健康・医療・福祉分野：生活習慣病予防事業への調査・イベント（R6年12/8健康ウォーキングに市民253人が参加した（アンケートの結果次回も参加したい人98%）。	10
	【1-4 研究活動への反映】 ◎教員・院生の研究活動の活性化を図る。科学研究費等外部資金への応募数、採択数の増加を目指す（継続）。  ○地域生活支援学専攻博士後期課程院生の国際学会発表を推進する。	【1-4 研究活動への反映】 ◎科学研究費等外部資金への継続課題数16件、新規応募数59件（62%）、院生研究活動として学会発表14件、投稿論文6件であった。	9
	<b>基準2. 学生</b> ≪学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応≫ 【2-1 学生の受け入れ】 ・到達目標は定員の確保。（継続）。	【2-1 学生の受け入れ】 ◎修士課程定員25名中19名、博士後期課程定員9名中7名が入学した。 大学院収容人数67名中48名が在籍している（内、留学生8名）。	8
	<b>基準3. 教育課程</b> ≪卒業認定、教育課程、学修成果≫ 【3-2 教育課程及び教授方法】 ◎地域生活支援学専攻博士後期課程への指導体制の充実を図る。（継続）。  スポーツ科学専攻修士課程、臨床心理学・保健医療学専攻博士後期課程申請する。	【3-2 教育課程】 ◎地域生活支援学専攻博士後期課程への指導体制の充実を図った（特別研究に6名体制）。	9
	スポーツ科学専攻修士課程、臨床心理学・保健医療学専攻博士後期課程申請する。	スポーツ科学専攻修士課程、臨床心理学・保健医療学専攻博士後期課程が開講された。	8
	<b>基準4. 教員・職員</b> ≪教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援≫ 【4-2 教員の配置・職能開発等】 ○大学院各専攻の教育研究に即した人事計画の策定する（継続）。	【4-2 教員の配置・職能開発等】 ○看護学専攻では教育研究に即した人事計画の策定した（特別研究に12名体制）。	8
	<b>特記事項</b> ◎国際化に向けての国際交流の拡大する（継続）  ○大学院広報の充実。入学者増に向けた広報活動を推進する（継続）	<b>特記事項</b> ○ホームページに大学院の活動（修士論文報告会、博士課程の教員紹介などを掲載した。 ・スポーツ科学専攻修士課程、臨床心理学・保健医療学専攻博士後期課程のチラシを各100部養成校、専門学校、実習地に配布した。	8
		当該委員会 達成度集計	60/70
		達成度平均点	86/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者      ◎印は優先事項      達成度は x/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
健康栄養学科 (学科長)	<b>基準1. 使命・目的等</b> ≪各学科・研究科の強み、特色の明確化≫ 【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 1.食と健康を通して地域、職域へ貢献し、大学のブランドを確立する。高い国家試験合格者を維持し、学科の地域における認知・認識を高める。 2.食育サポートセンターを通して地域の食育に貢献する。	【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】 1.食と健康を通して、佐賀県 SAGA2024 アスリートメニュー事業、SSP 女性アスリートウェルネス協議会、佐賀県立唐津南高校災害時栄養食事支援事業、神崎市認知症対策イベント・全国菱サミット事業や山内町を始めとする県内自治体、団体との健康づくり推進事業との連携協定・委託事業への貢献や QSP ウオーク、高校訪問、出張講義、ポルタ等の事業を通して、大学のブランドを確立するとともに学科の地域における認知・認識を高めることができた。 高い国家試験合格者を維持、継続し合格率は 84.4%であった。 2.食育サポートセンターを通して、佐賀県食育講演会講師派遣事業 (9 回)、佐賀県食育賞選定委員会、佐賀県食育推進交流会 (大雪予報により中止) 神崎市子どもまつり、小城普茶料理食事会への学生派遣 (2 回)、佐賀県玄海漁業協同組合委託事業への講師派遣、学園祭における展示 (災害時の栄養食事支援等)、食育教材の貸与貸出事業等を通して地域の食育推進に貢献した。	8
	【1-3 教育課程への反映】 ・教育内容を精査し、学生に魅力ある教育内容に改善する。	【1-3 教育課程への反映】 ・全教職員の連携協力により教育内容の精査を行い、授業評価アンケートへの対応を推進し、学生に魅力ある教育内容に改善することにより、卒業生による評価も適切な内容であった。	8
	【1-4 研究活動への反映】 ・外部資金獲得を推進する。科学研究費申請率の目標値を 80%以上とし、採択率の目標値を 30%以上とする。	【1-4 研究活動への反映】 ・外部資金獲得を推進した。科学研究費申請率は 61%であり、採択率は 9%であった。	6
	【1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業】 ・九州西部地域大学・短期大学連携事業に取り組む。	【1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業】 ・九州西部地域大学・短期大学連携事業に取り組む。QSP ウオークにより多数の市民の参加を得る中、出展したブースにより本学科の周知広報をした。	8
	<b>基準2. 学生</b> ≪学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応≫ 【2-1 学生の受入れ】 1.教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知 2.現在の受け入れ方針と教育目標について検証を行う。	【2-1 学生の受入れ】 1.教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知をした 2.現在の受け入れ方針と教育目標について検証を行い、食を通じた健康づくりと疾病の予防や治療に情熱をもって取り組む管理栄養士を目的に意欲、能力、適性をもった学生を受け入れた。 ②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証 ・本学科のアドミッション・ポリシーに共感できる学生を受け入れる方法を検討する。 ③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持 ・入学者数 90 名、志願者数 180 名、オープンキャンパス 300 名 (内生徒 200 名) を目指す。	8
	【2-2 学修支援】 ②TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実	【2-2 学修支援】 ②TA(Teaching Assistant)等の活用は実施しないが、全教職員が学生の課題を積極的に把握し学修支援の充実を図った。	8



# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者      ◎印は優先事項      達成度は x /10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
社会福祉学科 (学科長)	<p><b>基準1. 使命・目的、教育目的等</b>  <b>《各学科・研究科の強み、特色の明確化》</b>  <b>【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</b>                      国家試験対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新4年生の成績状況に即した対策プログラムを検討する。</li> <li>・4年ゼミ及び各課程における対策内容は学科会議で定期的に確認及び情報交換を行う。</li> <li>・各科目における国家試験を意識した授業展開・確認テスト行い。下位学年への意識・動機づけを行う。</li> <li>・地域社会への貢献として、継続的に要請に応じる。</li> <li>・被災地からの依頼に伴い、専任教員派遣を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特講Ⅰ・Ⅱにおいて、対策講座、模擬試験（業者模試・過去問を活用）を実施。確認テストを実施し、不合格者には再試を行い、習熟度を高めた。また、各ゼミ（発展Ⅲ）及び各課程において講義や個別指導の充実を図った。結果、社会福祉士合格率 72.5%（全国新卒 75.2%）、精神保健福祉士合格率 90.9%（全国新卒 85.3%）、介護福祉士合格率 100%（全国新卒 78.3%）であった。</li> </ul>	8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉士課程では、志望理由書を提出させ、1年次の成績（GPA）を参照し面接を行って課程への配属を決定する。</li> <li>・社会福祉士、精神保健福祉士必要科目を配当年次に修得し、3年次のソーシャルワーク実習、4年次の精神保健福祉士援助実習を履修できるよう、各課程において適切な指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉士課程では、1年次の1月に志望理由書を提出させ、GPAを参照し面接を行って10名の課程配属を決定した。</li> <li>・3年次の課程学生13名のうちソーシャルワーク実習の単位を履修できなかった2名が、4年次の精神保健福祉士援助実習を履修することができなくなった。</li> </ul>	10
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士国家試験全員合格の継続を行う。</li> <li>・ソーシャルワークにおけるケアワークの重要性（生活支援知識・技術の取得）について1年生に積極的に周知し、介護課程選択について奨励する。</li> <li>・社会福祉士等の国家資格を取得しないで、一般企業等に就職する学生のための教育プログラムの再検討を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合格率は100%であった。ソーシャルワークにおけるケアワークの重要性について説明し、介護課程選択について奨励した。</li> <li>・学生支援課と外部の就職支援企業（マイナビ）と協働し、就職セミナーを年間3回開催した。そこで、一般職への就活についても説明を行った。</li> </ul>	8
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭ソーシャルワーカーの教育プログラム等の具体的検討を行う。</li> <li>・新たな教員体制のもとで、カリキュラム改定を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任の教員を迎え、スクールソーシャルワーカー養成の課程を発足させた。</li> <li>・子ども家庭ソーシャルワーカー養成の大学教育課程が、いまだ政府より公表されていないが、令和9年度から社会福祉学科のカリキュラム改定を導入することを決定した。</li> </ul>	9
	<p><b>【1-4：研究活動への反映】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動の連携・協力体制を整えるために、前期2回程度計画。後期も同程度実施予定。</li> <li>・特に研究活動については、FDセミナーにおいて学科教員間で共有し、助言、示唆、協力関係を更に深めていく。</li> <li>・研究活動の活性化                      科研費、学長裁量経費、TSUNAGIプロジェクト等への応募80%、採択率60%を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教員FDセミナーを8月、2月に2回実施し、教員の研究について発表した。互いの進捗状況・共同研究の可能性について学びあった。</li> </ul>	9
	<p><b>【1-5：九州西部地域大学・短期大学連携事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラットフォームの取り組みに参画し、「福祉」領域を中心とした発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QSP健康ウォーク2024in佐賀として12月8日(日)にて佐賀城一帯で開催されたイベントに参画し、福祉体験のブース「脳トレ・バターゴルフ」を展開し、満足度の高いイベントとなった。</li> <li>・6月に長崎国際大学で行われた第188回教育向上研究会「第</li> </ul>	9

		4期認証評価の受審にあたり」に教員が参加し、福祉領域への提案を学科会議で複数回行った。	
<b>基準2. 学生</b> 《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》 【2-1：学生の受け入れ】 ①実施事項教育目的・内容を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定 ・令和7年度に入学定員は、40名となるが、学科の入学定員の充足に向けて、教育プログラムの刷新を図る。 ・カリキュラムの改定の検討と合わせて、アドミッション・ポリシーの内容の検討も行う。		・令和7年4月の入学者は36名と昨年度より増加した。うち外国人留学生在が10名を占めた。 ・3年次への編入学も12名と、昨年度より増加した。 ・社会福祉学科創設50周年事業にあわせて、今後の教育課程の刷新の方向性を示した。	8
②・アドミッション・ポリシーに応じた入試内容、評価基準の見直し、検討 ・高校生の純増強化のため、いろいろな高大連携事業を推進し、学科としてあらゆる知恵を出し取り組む。 ・外国人留学生在は、学部編入生、研究生から大学院修士課程へのルートの確立、社会人入学の広報活動など、定員確保と増加のための国際教育システムを検討する。		・高大連携事業は学環や短大部と重なり、独自事業実施には至らなかった。 ・学科として交換留学生4名を受け入れた。 ・研究生7名を受け入れた。 ・7月、厦門理工学院と厦門工学院との合同日本文化研修セミナー（31名）を本学学生と一緒に実施した。	8
③・積極的な広報活動として、高校訪問やガイダンスへの参加、オープンキャンパスや学校説明会について、重点校の見直しや実業系高校、短大等を対象に広く展開する。 ・学科の学びの特徴をアピールするポイントとして、福祉の多様性とリンクしたリニューアル感を出し、社会福祉学科の魅力を広く発信していく。		・進学ガイダンス等、積極的な広報活動を行い、重点校（指定校）等の見直しを行った。 ・学科ホームページでは、新たに教員の研究活動、実践活動などの情報発信を行った。また〇〇×福祉をテーマに多様性とリンクした学科の魅力発信に努めた。	8
【2-2：学修支援】 ゼミ担当、学年主任による効果的な学習支援を実施 ・ゼミナール担当教員を中心とした教育支援体制の充実を図る。 ・学科教員の全体制での教育支援を実施する。 ・大学4年間の学習活動を総体的に捉えた学修支援を図る。 ・専門職における教育課程に沿って一貫した学修プログラムの構築を図る。		・教員が連携して重層的な学修支援を行った。1年次は、前期にホームルームを開講して担任を中心に学修支援に努めた。2年次以降は、福祉の専門知識を身につけると共に、実習や演習など実践的な教育支援を行った。	9
【2-5：学修環境の整備】 ・学生の学習活動や研究活動に必要な図書館の環境整備の促進と図書館掲示板の活用		・専門・関連分野や外国語関係の書籍を購入し、学習環境を整えた。また、総研前の図書館掲示板も図書館と連携し、適宜更新した。	9
④・受講者数に応じたクラス分けと教室の割り当てを行ない適切な学習環境の確保に努める。 ・精神保健福祉援助実習において、実習指導の効率化を図る。 ・実習生のニーズに応じた個別的な対応を図る。 ・実習依頼の時期や方法など手続きの見直しを図る。 ・実習関係書類の電子化に向けた取り組みを行う。 ・LIFE・介護技術・DXについて、日本における最先端の施設や施設長の講話及び見学を実施する。 ・介護棟については、他学科との相互利用を実施する。		・精神保健福祉援助実習では、医療機関及び施設・地域事業所において精神保健福祉士としてのスキルを学ぶ機会を提供した。 ・介護においては、ICT・介護ロボット等の専門的な技術の習得及び介護技術の習得に向けて、実習室を活用した。 ・実習時の記録について、電子化を導入した。（社会福祉士・介護福祉士） ・授業内でのYouTube等の活用を行い、教育の向上を図るLIFE等についての現状や進捗状況について教授した。	8

	<p>【2-6：学生の意見・要望への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の学生実態調査の分析をさらに行い、学生支援へ活用する。</li> <li>・学科会議にて、学生動向を常に教員間で共有し、ダイバーシティセンター・学生支援課・学生相談室と連携し学生支援を強化する。</li> <li>・授業評価においては、回答率を上げることを教員間で進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生生活実態調査の結果、特に満足度が低かった1年生に対する支援体制を見直した。</li> <li>・学生支援委員会を中心として、ダイバーシティセンター・学生支援課・学生相談室との連携を図った。</li> </ul>	8
	<p><b>基準3. 教育課程</b>  <b>《卒業認定、教育課程、学修成果》</b>  <b>【3-1：単位認定、卒業認定、修了認定】</b>  <b>①・教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーについて学生便覧・シラバスを通じて周知を継続する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生便覧・シラバスに記載および各授業のガイダンスを通じて周知に取り組んだ。</li> </ul>	8
	<p><b>②・単位認定、実習内規、卒業認定等の基準の周知の継続を行い、ディプロマ・ポリシーに基づいた教育を継続する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種資格に必要な科目や実習の要件について学生便覧・シラバスに記載のうえ、前・後期の各学年のガイダンスおよび実習指導に該当する授業等で、周知に努めた。</li> </ul>	9
	<p><b>③・資格関連科目の履修の順序や履修方法について厳正な適用を徹底し、ディプロマ・ポリシーの実現に向けたカリキュラム・ポリシーの運用を継続する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各資格取得課程において履修ガイダンスを行うと共に、実習の履修の可否においては、実習内規をふまえた課程会議および学科会議の承認を得て実施した。</li> </ul>	9
	<p><b>【3-2：教育課程及び教授法】</b>  <b>・教育課程の再編に応じて、カリキュラム・ポリシーの再検討を行う。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の再編に関する検討の課程で、提供する資格やゼミナールのあり方について議論を行った。</li> </ul>	9
	<p><b>・教育課程の再編に応じて、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの再検討を行う。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の再編に関する検討の課程で、本学科の教育プログラムと教育ニーズ、求められる人材像について議論を行った。</li> </ul>	9
	<p><b>・これまでの学科の歴史や強みを活かして、学生や社会のニーズに応じた教育課程の編成を検討する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の歴史や強みを活かし、学生や社会のニーズに応じ資格や科目の提供について議論を行った。</li> </ul>	9
	<p><b>・諸データ（授業評価など）の内容・結果をもとに分析と評価を行い、学生に応じた教授方法を検討し実施する。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の授業評価・学修評価の結果から、学生ニーズに沿った教授法について検討し、授業内容の充実を図った。</li> <li>・学科FDなどを通じて、各科目担当の教員による取り組みに対して学科全体で支援した。</li> </ul>	7
	<p><b>【3-3：学修成果の点検・評価】</b>  <b>・学科内FDを活用し、授業での工夫や授業評価の活用方法について意見交換を行う。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学修成果の可視化として、ゼミ担当による学生への個人面談を定期的に行った。</li> <li>・オムニバス形式の授業においては、定期的なミーティングを行い、授業展開・学習進捗の確認と学修成果における点検・評価を行った。</li> </ul>	7
	<p><b>②学科内FD研修の企画・実施</b>  <b>・研修会を事前に計画・立案し、確実に実施する。</b>  <b>・学修成果へとつながる内容も盛り込む。</b>  <b>・実施を通し、内容の評価を行う。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科FD会議を定例的に実施した。(内容：学科内運用ルール、R6に取り組むべき事項について、入試広報、受験対策、学科将来構想)</li> <li>・50周年記念行事開催に向けて取り組んだ。</li> </ul>	7
		当該委員会 達成度集計	185/220
		達成度平均点	84/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者      ◎印は優先事項      達成度は x /10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
スポーツ健康 福祉学科 (学科長)	<b>基準1. 使命・目的等</b> ≪各学科・研究科の強み、特色の明確化≫ 【1-2 学科のブランドの明確化および 変化への対応】 ◎SSP 構想を中心とする連携事業の推進によるブランド力の 強化 (継続) (到達目標) ・具体的取り組みと結果の公表	◎昨年度に引き続き「女性アスリート支援事業 (FASpro Saga)」に取り組み、女性アスリート検診モデル事業を始め、 健康調査、集団栄養指導等を実施し、学部紀要への投稿や学会 発表など成果を公表した。また、スポーツ健康科学センターの 測定機器設置がほぼ完了し、特に今年度開催された SAGA2024 国スポ・全障スポに向けた県内のアスリートを対象とした測定を中心に、「フィットネスチェック事業」が本格的に稼働した。	10
	【1-3 教育課程への反映】 ◎連携事業の取り組みを活かした教育課程の検討 (継続) (到達目標) ・関連授業科目への導入を検討 ・アスレティックトレーナー (AT) 養成課程認定に応じた カリキュラム配置の検討	◎測定機器が常設された「スポーツ健康科学センター」を授業 で活用すべく、関連科目の配置を進めた。また、AT 養成課程 認定に向けたカリキュラムの具体的内容と教員人事計画案に ついて検討した。	8
	【1-4 研究活動課程への反映】 ◎連携事業を活かした研究活動の取り組みと外部資金獲得の 推進 (継続) (到達目標) ・科学研究費を含む外部資金への応募 10 件 (所属教員数) ・RA (リサーチ・アシスタント) 導入の検討	◎外部資金獲得として、佐賀県 SSP 構想連携事業の一環で 2 件総額約 2600 万円の予算を獲得した。また、科学研究費研究 代表者での応募 5 件 (うち 4 件採択)、共同研究者で延べ 4 件 採択され、併せて 460 万円の予算を獲得した。R6 年度 RA 導 入には至らなかったが、SSP 連携事業におけるスポーツ健康科学 センター専任職員の R7 年度配置計画を進めた。	10
	【1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業 (QSP)】 ○九州西部地域大学・短期大学連携事業への積極的な対応 (継 続) ・長崎国際大学との連携	○長崎国際大学との交流を進め、施設・設備の共同利用の実施 に関して 5 月 31 日に、本学の体育施設や設備を長崎国際大学 教員が見学し、今後の利活用について情報交換を行った。また 教育面では専門科目講義の一部 (1 コマ) を相互に担当し実施 した。	9
	<b>基準2. 学生</b> ≪学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対 応≫ 【2-1 学生の受入れ】 ◎教育目的 (教育課程の変更等) を踏まえたアドミッション・ ポリシーの検討 (新規) (到達目標) ・AT 導入の検討と具体化	◎現在 (3/29) の入学予定者は、43 名 (86%) である (4 名 辞退)。OC (9 月と 3 月を除く) と学校見学会の来学参加者総 数は、生徒 56 名 (昨年度 87 名) となり目標を下回った。高 校内ガイダンスは、依頼数 37 校 (昨年度 28) に対して、31 校 (昨年度 27) で実施した。	6
○アドミッション・ポリシーに沿った入試内容と評価基準の検 討 (継続)	○次年度に向けた総合型選抜入試制度の内容および評価基準 について検討した。	8	

	<p>◎入学定員確保への効果的な広報活動の検討と強化（継続） （到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な広報活動の検討と実施（OCへの生徒参加80名を目指す）</li> </ul> <p><b>【2-2 学生支援】</b></p> <p>○SA導入の検討（継続）</p> <p><b>【2-5 学修環境の整備】</b></p> <p>◎測定を伴う実習環境の整備（継続） （到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習・実習（特に学内実習）を伴う授業の適切な学生数の管理</li> </ul> <p><b>【2-6 学生の意見・要望への対応】</b></p> <p>○学生懇談会の開催（継続） （到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回実施</li> </ul> <p>◎スポーツ系サークル活性化支援（継続）</p> <p><b>基準3. 教育課程</b>  <b>≪卒業認定、教育課程、学修成果≫</b></p> <p><b>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</b></p> <p>○教育目的（教育課程の変更等）を踏まえたディプロマ・ポリシーの検討（新規）</p> <p>○各規準、各実習内規等の検討と周知（新規）</p> <p>○各規準、各実習内規等に基づく厳正な運用（継続）</p> <p><b>【3-2 教育課程及び教授方法】</b></p> <p>○教育目的（教育課程の変更等）を踏まえたカリキュラム・ポリシーの検討（新規）</p> <p>○カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性の確認と相互調整（継続）</p> <p>○カリキュラム・ポリシーに即した教育課程の体系的編成の検討（新規）</p>	<p>◎佐賀東高等学校との交流・連携協定を締結し、高大連携を進めた。また、学科イベントや専門講義の内容や、スポーツ活動で活躍する学生の様子をHPやSNSでの情報発信と、学科ニュース、小学校教諭二種免許取課程設置のチラシを作成し広報活動に活用した。</p> <p>○学生に協力要請をしながら学科イベントや学修支援に参画してもらい取り組みを学科会議で確認しながら進めた。協力学生に対しては、例として教員採用試験等大学推薦の対象とする学科基準に位置付けるなど制度的に実施した。</p> <p>◎スポーツ健康科学センターを設置し、SSPのフィットネスチェック事業においてトップアスリートの測定に学生が実際に関わり、6名の測定補助学生の育成を行った。3月にはハイパフォーマンスセンター視察に学生も同伴した。</p> <p>○各学年2名による代表者出席のもとに年2回、前後期終了後に実施した。学生から出された意見や要望に対する検討と対応に努め、結果をまとめて公表した。</p> <p>○9つの指定種目への強化費の予算立てを行い、希望サークルに対して選考会を実施して支援を行った。今年度後援会予算に競技力向上支援費10万円を新規計上し、活用した。さらに学生スポーツのスポンサー制度を連携協定により取り入れた。また、SAGA久光スプリングスとも連携協定を締結し、今後講義やスポーツ活動の支援を進めることとした。</p> <p>○卒業論文着手や教育実習履修条件などは、各内規に基づいた運用を行い、ディプロマ・ポリシーとの整合性を確認した。</p> <p>○各規準、各実習内規についてガイダンスやゼミを通して各学生の履修カルテを基に周知と点検を丁寧に進めた。</p> <p>○履修者の成績と学生による授業評価の結果をもとに、授業内容を見直し授業改善につなげるよう確認した。</p> <p>○カリキュラム・ポリシーの点検を行い、評価基準を学生に分かりやすく作成し直したが、学科のカリキュラムマネージメントとして評価体制の整備までは至らなかった。</p> <p>○教務委員会における見直し指示のもと両者の一貫性を再確認するとともに、各学科共通した様式で今後検討を進めることとした。</p> <p>○3つの履修モデルを基に、各領域で目指す資格と関連講義を再確認したが、カリキュラムのスリム化に合わせて今後再検討</p>	<p>7</p> <p>8</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>8</p>
--	---	--	---

	<p>○学生の実態に応じた教授方法の工夫と効果的な実施（継続）</p> <p><b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b></p> <p>○三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用結果の検証（継続）</p> <p>○学修成果の点検・評価結果の検証と学修指導等の改善（継続） （到達目標） ・関連の各種調査結果を踏まえた検討会（学科FD）の実施</p> <p><b>【その他】</b></p> <p>○小学校教諭二種免許状の課程認定申請を行う。</p>	<p>することとした。</p> <p>○各講義の特性とそれに見合った教授方法を各教員で見直し、学科で共有しながら継続的に効果的方法について検討することとした。</p> <p>○学生が作成する履修カルテを新規に設け、ゼミで管理することにより履修指導への活用を進めた。履修カルテは学年進行に沿って教員間で引き継ぎ、三つのポリシーについての点検・評価につながるようにしたが、運用状況の検証には至っていない。</p> <p>○履修カルテに基づいた、学習成果の点検・評価を継続して進めるとともに、学修指導への活用や改善を進めるために、学科会議での情報共有や学科FDを実施した。</p> <p>○小学校教諭二種免許状の取得課程を文科省に申請し、12月10日に学部学科の課程として認可された。</p>	<p>6</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>10</p>
		<p>当該委員会 達成度集計</p>	<p>169/210</p>
		<p>達成度平均点</p>	<p>80/100</p>

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等, ( ) 内は責任者      ◎印は優先事項      達成度は x /10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
リハビリ テーション 学科 (学科長)	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>                      ≪各学科・研究科の強み, 特色の明確化≫                      ◎地域社会との連携強化                      ◎地域を基盤とする教育機関としてのブランド力の確立 (継続)                      ・自治体や医療機関等と連携して研究・教育・広報活動に取り組む。また学生の地域活動への学生参加を積極的に進めていく (継続) (連携予定: 吉野ヶ里町, 太良町, MIZ, 佐賀リハビリテーション病院, 百武整形外科など)                      ・全障スポ (佐賀) へ専門家として協力する (SAGA2024 資格審査:2次など)                      ・全障スポ (佐賀) への学生ボランティア派遣を支援し地域貢献に努める                      ・認知症カフェなど地域の高齢者の生活支援に取り組む (継続)                      ・高大接続科目として高校生を対象にリハビリテーション学へのとびらを開講する。                      ○第5次カリキュラムを運用する (新規)。</p>	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>                      ◎地域社会との連携強化                      ◎地域を基盤とする教育機関としてのブランド力の確立                      ・12月3日に開催されたQSP ウォーキングイベントに教員・学生と参加し約 253 名の参加者に対して健康チェックを実施した。                      ・(株) MIZ と協働で教員・学生が参加し, 9月10日おとなの測定会で62名の参加者に対し健康指導を実施した。                      ・太良町と学科教員が協定を結び高齢者の健康づくり事業にて介入研究を行っている。                      ・自治体などと協力し事業を行った ①佐賀市: 認知症初期集中支援チーム委員, 女性アスリート支援, CHILWEL による産前産後支援②江北町, 鹿島市, 大町町, 小城市: 認知症カフェ等 ③神崎市: 地域ケア会議アドバイザー等④その他: 鳥栖地区広域市町村圏組合・神埼警察署・吉野ヶ里社協等)                      ・全障スポ (佐賀) へ学生・教員とも協力した。                      ・認知症カフェを 28 回実施した。                      ・第5次カリキュラムを運用し, 進級規定・卒業研究規定の見直しを行った。</p>	9
	<p><b>基準2. 学生</b>                      ≪学生の受入れ, 学生の支援, 学修環境, 学生の意見等への対応≫                      ◎学生受け入れ, 学生の支援, 学修環境の整備, 学生からの意見への対応 (継続)。                      ○ダイバーシティセンターと協力して学生支援に努める (新規)                      ○学部独自の就職説明会の実施 (継続)。                      ○指定規則改正に伴う臨床実習指導者講習へ協力を行い, 安定的な実習地の確保・新規開拓に努める (継続)。                      ◎学科独自の宣伝媒体 (新規学科パンフレット作成), 総合型選抜入試への誘導 (学科でのチラシ作成など), 高校訪問, 在学生を通じた母校への広報活動, 卒業生へ高校生への PT・OT 職業理解促進の協力を進める (継続)。                      ○総合型選抜など年内入試に力を入れる。  <b>【到達目標】</b>                      ・就職率 100%継続。                      ・学科定員充足率 90%以上</p>	<p><b>基準2. 学生</b>                      ◎学生受け入れ・支援                      ・R07 年度の入学予想数は, 総合選抜など年内入試に力を入れ広報したことで, 理学 60/40 名 (150%), 作業 29/30 名 (96.7%), 学科 89/70 名 (定員充足率 127.1%) と前年度より増加見込みである。(2025/03/21 現在)。                      ◎就職支援                      ・55 か所の病院に参加いただき学部独自の就職説明会を実施した (継続)。                      ・就職率は PT100%, OT100%。(2025/03/21 現在)。                      ◎実習地の確保に努め, 適正な実習配置・実習滞在費使用が出来た。                      ○広報活動                      ・高校訪問 66 校, ガイダンス参加 9 校, 学内見学 1 校, 寄せ植えコンテスト (高校 4 校), 高校部活生への支援 (吹奏楽部・サッカー部・バレー部など) . SNS 活用にて積極的に広報活動を展開した。</p>	10
	<p><b>基準3. 教育課程</b>                      ≪卒業認定, 教育課程, 学修成果≫                      ◎ディプロマポリシーアドミッションポリシーを点検する (継続)。                      ◎第5次カリキュラムの運用 (新規)。                      ○卒業率, 留年率の改善 (継続)。                      ○教員資格及び教育内容の自己点検・自己評価を実施・公表 (継続)。  <b>【到達目標】</b>                      ・卒業率 80%以上。                      ・国家試験合格率 100%達成。</p>	<p><b>基準3. 教育課程</b>                      ◎第3者によるカリキュラムチェックを行い意見交換した。                      ◎定期的に学科会議・専攻会議を開催し, 講義方法や学生対応・学部方針について意見交換や情報共有を図った。                      ◎第5次カリキュラムを問題なく運用できた。                      ○卒業率, 留年率の改善に向けて, チューター・ゼミでの面談, 担任制での対応を細やかに実施し, 進級規定の見直しを行った。                      ・15 期生 4 年卒業率は PT41/50 (82%) OT15/25 (60%) であった。                      ◎国家試験合格率改善に向けて, 外部講師を招聘してセミナーを実施した。                      ・国家試験合格率 (新卒) は PT41/42 (97.6) %, OT11/16 (68.8) % である。(2025/03/21)</p>	7

	<p><b>基準4. 教員・職員</b>  <b>《教学マネジメント, 教員・職員配置, 研修, 研究支援》</b>  ◎教員・職員の安定的な配置を検討する。(新規)  ◎研究活動の活性化(継続)  ・地域連携に寄与する研究の実施と充実(継続).  ・科研をはじめとする外部資金応募数・採択数の増加(継続).  ・地域の自治体や医療機関との共同研究の推進(継続).  ◎PT/OT 養成施設ガイドラインに基づく自己点検の実施・公表(継続).  ○教育・研究経費の適正使用と節約の実施(継続).  <b>【到達目標】</b>  ・受託研究継続  ・科研費応募率90%以上継続  ・科研費採択率30%以上を目指す  ・その他外部資金応募率・採択率の向上  ・学部教員配置の適正化</p> <p><b>5. その他</b>  ◎学部同窓会との連携  ・同窓会との連携を図り, 卒業生の活動を支援する(継続).</p>	<p>◎教員資格及び教育内容について養成施設指導ガイドラインに基づき自己点検・自己評価を実施し公表する。(2025/03/31)</p> <p><b>基準4. 教員・職員</b>  ◎教員配置  ・助手未配置により, 定員を超えた学生の対応と助手業務分担で助教の業務過多が続いた.. 理学療法学専攻1名の育休については非常勤講師と内部教員で対応した.  ◎研究活動の活性化  ・科研費への応募率は高く, 令和6年度は90%であった(継続含18/20). また令和6年度採択・継続者は9人であった(45%).  ・研究助成金に応募・採択された(TSUN AGI プロジェクトなど各種)  ・地域の自治体や医療機関との共同研究を実施することができた.  ・企業からの受託研究も実施した(受託先:株テクノリンク・株ドリーム)  ○教育備品・設備について  ・予算削減により, 次年度以降に購入を延期したものがあ..  ◎教員資格及び教育内容について養成施設指導ガイドラインに基づき自己点検・自己評価を実施し公表した.  ○予算削減・教員数減により長期教員研修会に参加することが出来なかった. 次年度以降に持ち越し.  ○予算削減によりSVはオンライン開催とした(継続)</p> <p><b>5. その他</b>  ◎学部同窓会との連携  ・卒業研修会を実施した.  ・卒業生の転職や研究相談に随時対応した.</p>	<p>8</p> <p>8</p>
		<p>当該委員会 達成度集計</p>	<p>42/50</p>
		<p>達成度平均点</p>	<p>84/100</p>

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度は x/10

区分及び担当	令和6年度検討および実施事項	令和6年度総括	達成度
子ども学科 (学科長)	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>                      ≪各学科・研究科の強み、特色の明確化≫                      中期目標 1-2: 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応                      中期計画: 学部学科・大学院の各特色を实践する教育機関としてのブランドの確立                      計画事項: 学科の特色の創出及びブランド力の構築                      【到達目標】                      ◎学部学科の将来構想を念頭に置き、学科の特色と使命、及び教育機関としてのブランド力を明確にする為の検討を行う。</p>	<p>「子ども学科将来構想 WG」を設置して、「学生確保の戦略」等の課題を決めて毎月一回程度検討を重ねてきた。その結果、一般入試等の「年明け入試」受験者増を目標に佐賀県内の高校に対するアプローチを強め、結果的に定員充足ができた。</p>	10
	<p>中期目標 1-3: 教育課程への反映                      中期計画: 各特色の教育課程への反映                      計画事項: 学科の特色を反映した教育課程の考案と実施                      【到達目標】                      ◎学科の特色及びブランドを反映した教育課程の再考を行い、その特色の明確化とブランド力の構築にむけた教育課程を実施する。</p>	<p>教員採用試験実施時期の前倒しを予想して、小学校教育実習の早期化に加え、キャップ制の厳格な運用のために全般的なカリキュラムの見直しを行った。また、附属幼稚園・保育園と協力して、実習内容改善のための WG を立ち上げて継続研究を行っている。</p>	10
	<p>中期目標 1-4: 研究活動への反映                      中期計画: 各特色の研究活動への反映                      計画事項: 学科の特色に対応した研究テーマの考案と実施                      【到達目標】                      ○学科のブランドに関連した研究課題「特別支援に強い教員・保育者養成プログラムの構築」の継続研究を行い、研究推進に向けた研修及び検討会を実施する。                      ○研究活動の促進と充実のため、外部資金獲得の推進を図るために、外部資金申請率 60%以上を目指す。</p>	<p>学科のブランド力教科に関連して「特別支援教育に強い教員・保育者養成プログラムの構築」の継続研究を行い、昨年度に引き続き本年も「発達障害支援フォーラム」を開催した。外部資金獲得の推進を図り、情報交換や研修会を実施したが、目標の申請率 60%を達成することはできなかった。</p>	8
	<p>中期目標 1-5: 九州西部地域大学・短期大学連携事業                      中期計画: 九州西部地域大学・短期大学連携事業への参画                      計画事項: 九州西部地域大学・短期大学連携事業への積極的な取り組み                      【到達目標】                      ○学科の特色を活かし、九州西部地域大学・短期大学連携事業に参画する。</p>	<p>QSP(九州西部地域大学・短期大学連携事業)の事業の一つ、西九州大学主催「健康ウォーク 2024」に参加し、学科の特色を活かした展示・実演を行った。</p>	10
	<p><b>基準2: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応</b>                      中期目標 2-1: 学生の受入れ                      中期計画①: 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知                      計画事項: 学科の教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知                      【到達目標】                      ○学科の特色及び教育目的を明確にし、アドミッションポリシーの再考・策定を継続して行う。                      ○アドミッションポリシーを周知する為の情報発信媒体を検討・作成し、広報活動に活用する。</p>	<p>「3つのポリシー」を改めて確認した。                      新入生を対象に「入学(志願)理由」、「受験時の併願校」等について調査し、アドミッションポリシーとの適合性と周知のあり方について検討した。                      大学の Hp、学科の SNS を通して、学科の様子を伝え、アドミッションポリシーの周知を図った。</p>	10
<p>中期計画②: アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証                      計画事項: アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施と、入学後の学修状況の關係の検証</p>			

	<p><b>【到達目標】</b>  ○入学者受入れの実態とアドミッションポリシーの関係、及び入試結果と入学後の学修状況との関係について、分析を行う。</p> <p><b>中期計画③：入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</b>  <b>計画事項：</b>入学定員確保及び志願者増に向けた学生募集活動の検討と強化  <b>【到達目標】</b>  ○学生募集活動について、引き続き、他大学の情報収集を行い、その上で過去5～10年間の取り組み及び令和6年度入試傾向を検証し、入学定員に沿った学生受け入れ数の維持を図る。</p> <p><b>中期目標 2-2：学修支援</b>  <b>中期計画②：TA( Teaching Assistant )</b>  等の活用をはじめとする学修支援の充実  <b>計画事項：</b>学修実態の把握及び必要な支援の確保と充実  <b>【到達目標】</b>  ○学生の学修の実態について、学科教員間の共有を図りつつ、引き続き、学期末及び学期始めに把握し、指導に当たる。なお、実態把握の為に的確な方法や時期、必要な支援内容及び体制の検討を行う。</p> <p><b>中期目標 2-5：学修環境の整備</b>  <b>中期計画②：実習施設、図書館等の有効活用</b>  <b>計画事項：</b>子育て支援室、保育演習室、ML教室、ゼミ室等の活用状況の把握と有効活用の推進  <b>【到達目標】</b>  ○子育て支援室、保育演習室、表現スタジオ、ML教室、音楽室、ピアノレッスン室、ゼミ室、図書館の活用状況の把握と、有効活用に関する継続検討を行う。</p> <p><b>中期計画④：授業を行う学生数の適切な管理</b>  <b>計画事項：</b>授業を行う学生数の適正化に関する検討と実施  <b>【到達目標】</b>  ○授業を行う学生数の適正化について早期からの検討を定期的、継続的に行う。</p> <p><b>中期目標 2-6：学生の意見・要望への対応</b>  <b>中期計画①：学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</b>  <b>計画事項：</b>学生の意見集約の方法検討と分析、結果の学修支援活用手段の検討  <b>【到達目標】</b>  ○全学的に行う学生への意識調査の分析を有効活用しつつ、学修支援に関する学生の意見を把握する方法を再検討する。そのうえで学修支援への活用を図る。</p> <p><b>基準3：卒業認定、教育課程、学修成果</b>  <b>中期目標 3-1：単位認定、卒業認定、修了認定</b>  <b>中期計画①：教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知</b>  <b>計画事項：</b>教育課程に沿ったディプロマ・ポリシーの再考と周知  <b>【到達目標】</b>  ○ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性について、引き続き協議し検証を行う。</p> <p><b>中期計画②：ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準等の策定と周知</b>  <b>計画事項：</b>単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定等の基準の再考と周知</p>	<p>入学者受入れの状況について佐賀県内の高校を訪問し、送り出す高校側の指導内容等について調査するために学科独自の高校訪問を実施した。また、入試結果と学修状況(GPA)の関係について検討した。</p> <p>「(指定校・学校長推薦)」、「総合型選抜」の「年内入試」と「一般入試(I～II期)」、共通テスト利用(I～III期)の「年明け入試」の実態について、過去5～10年間の入試傾向を検証し、入学定員に沿った学生受け入れ数の維持の方策について検討した。</p> <p>学修面をはじめ生活面も含めて学生の生活実態を把握するために、ゼミ担当教員を中心に個別面談・相談を実施した。共有すべき情報については、毎月の学科会議で情報共有を行った。学生の生活実態の把握及び必要な支援について、学科FD研修会を実施した。</p> <p>旧PC演習室を普通教室化し、ゼミ等での指導の場を充実させることができた。また、従来からある保育実習室等の有効活用を通して、実践的な学びの場の整備・充実に努めブランド力強化を図った。</p> <p>「教育の質向上」のために多人数による授業を避け、演習科目を中心に必要に応じて2クラス展開で授業を実施した。</p> <p>学生を対象とした定期的な「調査」とは別に、ゼミ担当教員との面談など日常的な学生と教員のコミュニケーションの中から学生の「生の声」を取り上げ、必要に応じて、学科会議などで対応について検討した。</p> <p>前述の「学科将来構想WG」等において学生の実態を把握しながら、3つのポリシーの見直しを行った。</p>	<p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>9</p> <p>9</p>
--	--	---	--

<p><b>【到達目標】</b> ○単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定基準の確認及び周知について、引き続き検証を行う。</p> <p><b>中期計画③：単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用</b> <b>計画事項：</b>単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定等の基準の厳正な適用</p> <p><b>【到達目標】</b> ○単位認定、実習内規、卒業認定、修了認定基準の確認及び周知と厳正な適用について、引き続き検証を行う。</p> <p><b>中期目標 3-2：教育課程及び教授方法</b> <b>中期計画①：カリキュラム・ポリシーの策定と周知</b> <b>計画事項：</b>教育課程に沿ったカリキュラム・ポリシーの再考と周知</p> <p><b>【到達目標】</b> ○教育課程に沿ったカリキュラム・ポリシーの再考を継続して行う。</p> <p><b>中期計画②：カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性</b> <b>計画事項：</b>カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性の検証</p> <p><b>【到達目標】</b> ○教育課程に沿ったディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性について、継続検証を行う。</p> <p><b>中期計画③：カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成</b> <b>計画事項：</b>カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成の見直しと実行</p> <p><b>【到達目標】</b> ○カリキュラム・ポリシーに即した教育課程の体系的編成の検証を引き続き行う。</p> <p><b>中期計画④：教授方法の工夫・開発と効果的な実施</b> <b>計画事項：</b>学生の実態に応じた教授方法の開発と効果的な実施</p> <p><b>【到達目標】</b> ○学生の実態に応じた教授方法の開発と効果的な実施について、学科内での情報共有及び取り組みの検討を継続して行う。</p> <p><b>中期目標 3-3：学修成果の点検・評価</b> <b>中期計画①三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用</b> <b>計画事項：</b>三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の再考と運用</p> <p><b>【到達目標】</b> ○三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価の実態把握と学科内での共有方法等について、再考と検証を行う。</p> <p><b>中期計画②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック</b> <b>計画事項：</b>学修成果の点検・評価結果に関する学生・教員双方のフィードバック体制の構築</p> <p><b>【到達目標】</b> ○学修成果の点検・評価結果に関する学生・教員双方のフィードバック体制に関する検討を行う。</p>	<p>「卒業要件」について、従来の「単位数の充足に加え、GPA2.0を付加して「学びの質向上」を目指す。学期ごとにきめ細かな面談を通した学修指導を実施した。</p> <p>3つのポリシーの見直しを行った。その中で、「実習時期の見直し」とあわせて、仮キュラムポリシー及び教育課程について再検討を行った。</p> <p>教育課程に沿ったカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性について、継続的に検討を重ねている。</p> <p>教育課程に沿ったディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの再考と周知、及び両者の整合性について、継続的に検討を重ねている。</p> <p>教育実習の前倒し実施及びキャップ制の適切な運用という両面から、カリキュラム・ポリシーに即した教育課程の体系的編成の検証を行った。</p> <p>学生の実態把握として、学修状況の把握に留まらず、その背景となる要因について、FD研修会を実施した。</p> <p>三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価の実態把握と学科内での共有方法等についてFD研修会を実施した。</p> <p>学修成果の自己評価に関する評価内容・評価方法についてFD研会を実施した。</p>	<p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p>
	<p>当該委員会 達成度集計</p> <p>達成度平均点</p>	<p>195/200</p> <p>98/100</p>

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者 ©印は優先事項 達成度は x/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
心理カウンセ リング学科 (学科長)	<p><b>【基準1 使命・目的、教育目的】</b></p> <p>1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応</p> <p>●学部学科・大学院の各特色を实践する教育機関としてのブランドの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の特色を生かした地域支援、卒後教育（学科同窓会）の実施、進路決定支援を行う。1年あたり、卒後教育を1回以上、地域の協定先や職能団体との情報交換をのべ3回以上実施。</li> <li>・中高教員向けを想定したカウンセリング力向上のための研修会を実施する。</li> <li>・高校倫理における心理学的内容の授業計画をリスト化し PR する。</li> </ul> <p>☒エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換会の議事録</li> <li>・研修会実施報告書</li> <li>・PR チラシ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10回学科研究大会、同日に卒後教育を実施した。</li> <li>・地域の協定先及び職能団体との情報交換を8回行った。</li> <li>・カウンセリングマインド向上研修会を実施した；8月5日は実施、8月29日は台風で中止。</li> <li>・高校倫理における心理学的内容の授業計画をリスト化し PR した。</li> </ul>	10
	<p>1-3 教育課程への反映</p> <p>●各特色の教育課程への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムへの移行を行いつつ、特色を教育課程に反映させる。</li> <li>・教育・学校心理学にて LGBTQ+ の理解を啓発するための授業を展開する。</li> </ul> <p>☒エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を行ったことを紹介するホームページ上の記事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」で1年生に傾聴練習や施設見学を実施した。</li> <li>・学校・教育心理学として2024年7月26日に、加えて8月7～8日に心理カウンセリング学科公認「ALLY（アライ）講座」を実施した。心理カウンセリング学科の25名が参加した。</li> </ul>	10
	<p>1-4 研究活動への反映</p> <p>●各特色の研究活動への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連学会等や講座の開催、学位論文や相談ケースに基づく学生・卒業生の研究発表を促進する。残り4年間で、学会や講座を11回以上、学生・卒業生による研究発表を9件以上実施する。</li> </ul> <p>科研費を含めた外部助成研究の申請率60%以上</p> <p>☒エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会や講座のチラシ</li> <li>・論文集の目次等</li> <li>・科研費等の申請リスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学会会場として外部機関の主催する学会や講座を2回実施した。</li> <li>・学生・卒業生による研究発表を4件（発表3件、論文1本）実施した。</li> <li>・科研費を含めた外部助成研究の申請率が62.5%であった。</li> </ul>	9
	<p>1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業</p> <p>●九州西部地域大学・短期大学連携事業への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度以降もQSP健康ウォーク事業の継続が予定されているため、引き続き学科ブースにて地域住民の心の健康に役立つ企画を行い、学科や大学・学園の地域住民への周知につなげていく。高大連携の機会として、高校生の受け入れも積極的に行っていく。令和5年度以上の参加者の獲得を目指す。</li> </ul> <p>☒エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・QSP参加を報告するホームページ記事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QSP健康ウォーク事業において、全体として253名の参加を得た。心理カウンセリング学科では、学部生2名の協力も得ながら「ストレスチェック」を実施し、ストレス対処法について伝えるとともに、佐賀市が作成した地域の各種相談機関のパンフレットを配布し、地域連携事業に積極的に寄与した。なお、高大連携の機会として学科ブースに高校生の受け入れを行う予定だったが、高校側の事情にて当日は高校生の参加は得られなかった。</li> </ul>	9
	<p><b>基準2 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応</b></p> <p>2-1 学生の受入れ</p> <p>●教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドミッション・ポリシーの検討と選抜方法の検討、高校現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜における方法の検討が、入試広報委員会内ワーキンググループで行われ、学科会議でその報告や審議がなされ</li> </ul>	10

	<p>場での周知をはかる。高校訪問は九州北部への継続訪問を検討するほか、佐賀、福岡南部の高校教員を対象とするカウンセリング力向上研修や、高大連携授業を通してポリシーの浸透を高める。</p> <p><b>エビデンス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試要項</li> <li>・学科報</li> </ul> <p>●アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校別の入学後状況との関連を検討する。</li> <li>・総合型タイプⅢにおける学科特別資格について検討する。</li> </ul> <p><b>エビデンス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議資料</li> <li>・入試要項</li> </ul> <p>●入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HP、SNSによる情報発信の強化。WebとSNSへの投稿を合わせて年間90件以上。</li> <li>・動画配信ツールを用いた情報発信の強化。</li> <li>・学科広報サポーターによる情報発信の強化、継続的な体制づくり</li> <li>・高校訪問、進路ガイダンスを積極的に行う。</li> </ul> <p><b>エビデンス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HP、SNS記事の日付タイトル一覧</li> <li>・広報サポーター活動記録、学科報等の記事等</li> </ul> <p>2-2 学修支援</p> <p>●TA( Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学修支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TAの活用、他学年交流、学科独自の学修支援を継続する。1年あたり、TA参画80時間以上、他学年交流を5回以上実施する。</li> </ul> <p><b>エビデンス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TA出勤簿</li> <li>・他学年交流の感想</li> <li>・キャリアアップ講座テキスト</li> <li>・アセスメントテストの評価</li> </ul> <p>2-5 学修環境の整備</p> <p>●実習施設、図書館等の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理相談センター・図書館(データベース含)の活用、及び、検査・実験室設置と統計ソフト購入へのアクションを起こす。1年あたり、相談センターを使った授業を4コマ以上、図書館(データベース含)利用講座を3コマ以上実施する。</li> </ul> <p><b>エビデンス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業資料、写真</li> </ul>	<p>た。周知は高校訪問(41校)で行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年8月5日(月)心理カウンセリング学科主催『カウンセリングマインド向上研修会』を実施した。佐賀県全域及び福岡県南部の高等学校の教諭35名が参加した。また、高大連携授業(心理学のとびら)では、7名の生徒が参加した。</li> </ul> <p>・年内入試の初回である総合型Ⅰ期入試において、総合型タイプⅠは9名であったが、タイプⅡは2名、タイプⅢは5名であった。育成型であるタイプⅠにおいて顕著な希望がみられた。タイプⅠの育成に注力する必要性が見出された。また、タイプⅢは全学的に見直しの対象になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型入試が大きく変わったため、高校別の入学後状況との関連は、新制度の定着後に行うこととした。</li> </ul> <p>・学科教員全員がローテーションでHPおよび学科公式SNSの記事を作成し、授業紹介や大学生活の様子等について情報発信し、広報活動をおこなった(年間掲載実績数:HP73記事【R5年度実績73記事】、SNS154記事【R5年度実績54記事】、合計227記事【R5年度実績111記事】/2月末現在)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、学科の魅力が学生が主体となって発信していく為に、学科広報サポーターを募集し、広報活動の体制構築を図った。主な活動としては、オープンキャンパスの展示物作成や、学生が抱く大学・学科の魅力についてサポーターが在学生にインタビューを実施し、学科公式SNSやHP等で発信をおこなった。さらに、R7年度は学科紹介パネル(リーフレット)をリニューアル作成し、学内でのパネル展示や大学・学科行事でのリーフレット配布を通して、広報活動を積極的におこなった。</li> <li>・進路ガイダンス28校、高校訪問41校を実施した。</li> </ul> <p>・「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「芸術療法」「芸術療法Ⅱ」「芸術療法Ⅲ」におけるTAの活用を93時間行い、学生の学修支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年交流について、3年生が1年生に学修や生活の助言を行う機会、4年生が2・3年生に進学や就職活動の助言をする機会、4年生が3年生に小学校子ども支援ボランティアの活動について報告する機会、3年生が2年生にインターンシップの報告・助言を行う機会、上位学年のゼミ発表会に下学年が参加する機会、オープンキャンパスにおける多学年共同運営など、計10回の交流の機会を得た。</li> <li>・1年次「キャリアアップ講座Ⅰ」については、授業担当教員が対象学生への指導に用いる独自のテキストを作成し授業に使用した。また、1年生全員に日本語検定の受検を推奨し、日本語力の向上に努めた。</li> <li>・2年次「キャリアアップ講座Ⅱ」の受講者には、アセスメントテストを受講開始前、受講最終日に2回実施し、授業内容の確認資料として用いた。また、毎回グループワークを実施し、組織的役割を学生各自に体験させ、社会人基礎力の向上に努めた。</li> </ul> <p>・臨床心理相談センターを使った授業を、1年生2コマ、2年生2コマ、3年生3コマの7コマ実施した。図書館利用講座を、1年生1コマ、2年生1コマ、データベース利用講座を、2年生で2コマの、計4コマ実施した。</p>	<p>8</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p>
--	--	--	--

	<p>●<b>授業を行う学生数の適切な管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習演習、ゼミ等における適切な学生数及び教員数の管理を常時行う。</li> <li>・公認心理師のための実習演習担当教員講習会に応募、出席する。</li> </ul> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習演習担当講習会修了証</li> </ul> <p>2-6 学生の意見・要望への対応</p> <p>●<b>学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、学生の学修状況調査と個別指導を通じた状況把握と共有化を行う。1年あたり、全学生の個別面談を2回以上実施する。</li> </ul> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談日の記録簿</li> </ul> <p>基準3 卒業認定、教育課程、学修成果</p> <p>3-1 単位認定、卒業認定、修了認定</p> <p>●<b>教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの周知と必要による再設定を行う。1年あたり1回以上、全学年にディプロマ・ポリシーを周知する。</li> </ul> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ガイダンス資料</li> </ul> <p>●<b>ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマ・ポリシーを踏まえた科目履修条件、単位認定基準、資格課程認定基準等の検討、策定と周知を行う。1～3年生に対して心理実習、GPA、卒業研究履修の内規を毎学期伝える。3～4年生には卒業認定基準を伝える。</li> </ul> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ガイダンス資料</li> </ul> <p>●<b>単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目履修条件、単位認定基準、資格課程認定基準等の適用を行う。資格課程認定会議を年1回開催</li> </ul> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格課程認定会議議事録</li> </ul> <p>3-2 教育課程及び教授方法</p> <p>●<b>カリキュラム・ポリシーの策定と周知</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・ポリシーのホームページを、新カリキュラムへの移行に伴って一部改変して掲載を続ける。</li> </ul> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの記事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生15名に対して教員1名の配置で各演習、実習指導が行えるよう教員配置を行った。心理実習に関しては、各ゼミ担当者が履修状況を把握し実習に必要な履修について2年次、3年次の学生に周知した。</li> <li>・公認心理師のための実習演習担当教員講習会に応募し、今年度は3名の教員が受講することができ、資格を取得した。</li> </ul> <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ担任による学生の学修状況個別指導を各学年2回以上行った。特に学期初めの履修登録時期には全学年の個別指導において、学修成果の振り返りや科目登録漏れがないかなどを確認し状況把握・指導を行った。履修不良の学生の保護者連絡や面談も積極的に行った。</li> <li>・令和6年度に心身の障害により配慮要望が出ている学生計21名について、ダイバーシティセンターと連携し、ダイバーシティセンター運営委員会を中心に状況の聞き取りを行い、学科会議で支援のあり方について検討・確認を行うとともに学科教員以外で授業担当を行っている教員へはダイバーシティセンターを通じ文書にて配慮依頼を行った。</li> <li>・『学生生活実態調査』の結果は教授会で確認し、授業内容の向上や対応について検討していくこととした。</li> <li>・事務職員と連携し、実態把握や対応の可視化のために、学生対応について学科会議での報告を行い、議事録にて文書化を行った。</li> </ul> <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～4年生の各ゼミ主任が、前期・後期のガイダンス時に学生へディプロマ・ポリシーの周知確認を実施した。</li> </ul> <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～4年生の各ゼミ主任が、前期・後期のガイダンス時に学生へディプロマ・ポリシーに基づいて学科で作成した「心理実習」履修基準、卒業研究履修基準、GPAによる履修指導基準の周知確認を実施した。</li> </ul> <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科教務委員、ならびに1～4年生の各ゼミ主任が、担当学年の成績・単位取得状況・GPAの得点状況確認を、前期・後期に実施した。卒業研究履修・心理実習の履修条件が満たせなかった学生・GPAの基準、卒業単位未修得者の確認を行い、令和6年3月学科会議で学科教員全員による判定会議を行った。その後関係教員は学生・保護者への説明・指導を実施し、令和6年4月に指導の進捗状況を学科会議にて報告、周知を図った。</li> </ul> <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・ポリシーのホームページを、新カリキュラムへの移行に伴って一部改変した。</li> </ul>	<p>8</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p>
--	---	---	--

<p>●カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性 ・教育課程、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーがより一貫性をもつよう検討を行う。</p> <p>エビデンス ・学科会議議事録</p> <p>●カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成 ・新カリキュラムへの移行を進める。</p> <p>●教授方法の工夫・開発と効果的な実施 ・FD研修会の実施、教授方法の開発や評価に関する実践報告・研究発表の促進をする。FD研修会を1年あたり1回以上開催、教授方法に関する報告・発表を残り4年間で4回以上実施。</p> <p>エビデンス ・FD研修会記録 ・報告・発表の原稿や目次</p> <p>3-3 学修成果の点検・評価</p> <p>●三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用 ・引き続き、学修成果の点検・評価方法の運用をはかる。学修成果の自己評価実施率80%以上のために、令和5年度後期の自己評価について前期ガイダンスで周知・実施するとともに、ゼミでの個別学習指導に活かす。</p> <p>エビデンス ・FD研修会記録 ・面談日の記録</p> <p>●教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック ・引き続き学修成果の可視化を用いた学生指導及び学修成果への自覚を促す教育の実施をはかる。学修成果の可視化を用いた指導を、1～3年生に対し1年あたり1回以上実施する。</p> <p>エビデンス ・面談日の記録</p>	<p>・カリキュラム・ポリシーもディプロマ・ポリシーも改正は行われなかったが、基幹教員制度導入に伴う主要授業科目を設定した。</p> <p>・新カリキュラムへの移行を進めた。また、「死生学」が社会福祉学科で隔年開講になったことに伴い、開講年次を4年から3年に変更した。</p> <p>・2025年3月6日に学科FD研修会を実施した。テーマは、学生支援についてで、ダイバーシティセンター長の話題提供をもとに個々の学生支援について議論した。 ・心理的アセスメントと教育・学校心理学の教授方法に関する論文が2件行われた。</p> <p>・前期・後期ガイダンスでの学修成果の自己評価を実施し、各学年のゼミ個別指導の際に自己評価の確認を行った。令和6年度前期の自己評価実施率は、96%（休学者除く）となった。</p> <p>・各学年の前期・後期初めのゼミ個別指導の際（2、3年生2回、1年生1回）、単位履修状況確認と同時に学修成果の自己評価の確認を行い、過小評価・過大評価の学生には自己評価状況の詳細の確認と、今後の学修における留意点について指導した。</p>	<p>6</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>10</p>
	<p>当該委員会 達成度集計</p>	<p>190/200</p>
	<p>達成度平均点</p>	<p>95/100</p>

## 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度はx/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
看護学科 (学科長)	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>                      ≪各学科・研究科の強み、特色の明確化≫                      【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】                      ◎地域看護研究研修センターを中心に学科の特色を生かした公開講座などの企画・実施</p> <p>1) 研修センター事業                      実習指導研修会1回、公開講座2回、健康教室2回を計画し、大学院生募集は、集客を上げるため、指導者研修や公開講座等の看護職が参加する機会に盛り込むこととする。また、実施時は事前の予算計画書をもって実施にあたることとした。様々な機会を設け、学部・大学院の広報を行い、地域へのアピール、地域貢献につなげる。</p> <p>☐エビデンス☐：研修センター事業報告書</p> <p>2) 看護学科の魅力発信に重点を置き、高校訪問、出張講義、oc国スポ・全障スポ、学園祭の子宮がん検診などの機会をとらえて、学生を積極的に参画させることにより、受験生とその保護者および地域住民に本学科をアピールする。</p> <p>3) 大学教員が地域での講演・公開講座は依頼を受けやすくなるため、出張講義ガイド等を全員が必ず提出し、周知する。</p> <p>4) 西九州大学・小城高校・牛津高校・小城市の包括連携協定校への講義の実施（看護学へのとびら）</p> <p>5) 小城市との包括連携協定では、高校との連携は他校への拡大を検討し、このほか、可能性のある他の分野もアプローチし、学修の場や実習・ボランティア活動等へつなげる。市のイベント：ようかん祭り等への学生の主体的な参加協力により地域への周知と地域貢献を行う。</p> <p>☐エビデンス☐：高校訪問、出張講義一覧、oc資料、看護学へのとびら時間割、終了後アンケート</p> <p>6) 大学院（看護学専攻、保健医療学部）のアピールを公開講座や出張授業の際に行う。</p>	<p><b>基準1. 使命・目的等</b>                      ≪各学科・研究科の強み、特色の明確化≫                      【1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応】</p> <p>1) 研修センター事業                      実習指導研修会1回、公開講座2回（リンパケア・避難所運営ゲーム）、健康教室（パパ・ママ教室）2回実施した。大学院生募集は、集客を上げるため、指導者研修や公開講座等の看護職が参加する機会に盛り込んだ。実施時は事前の予算計画書をもって実施できた。また実習協議会などの機会を利用してパンフレットを持参して説明し、学部・大学院の広報を行い、大学院生2名の受験につながった。☐エビデンス☐：研修センター事業報告書</p> <p>2) 高校訪問・出張講義・進路ガイダンス（29件）の依頼はすべて引き受けた。OC、国スポ・全障スポ、学園祭の子宮がん検診などの機会をとらえて、学生を積極的に参画させることにより、受験生とその保護者および地域住民に本学科アピールを行った。</p> <p>3) 大学教員が地域での講演・公開講座は依頼を受けやすくなるため、出張講義ガイド等を新任者1名を除き全員が提出した。</p> <p>4) 西九州大学・小城高校・牛津高校・小城市の包括連携協定校への講義の実施（看護学へのとびら）を行い、5名の受講があった。そのうち3名が推薦入試での入学生となった。</p> <p>5) 小城市との包括連携協定の初めての試みとして、学友会主催のスポーツ大会を小城高校・牛津高校・小城市役所職員との交流イベントに格上げして実施し、全体で84名の参加があり、今後も継続したいとの意見が多数寄せられた（エビデンス：R6年度第23回学科会議資料）。また、ようかん祭りでの学生によるハンドマッサージの実施では138名の来場者があり、10名のボランティア学生が対応して大変好評であり、大学の周知を図ることができた（エビデンス：R6年度第17回学科会議資料）。また、佐賀県 presents SAGATOKO マッチ（仮）健康測定ブースにおいても、健康チェックブースを出展し、学生ボランティア4名による血圧測定などの健康チェックを行い、参加者への学科周知を図ることができた（エビデンス：R6年度第25回学科会議資料）。</p> <p>6) 大学院生募集は、集客を上げるため、指導者研修や公開講座等の看護職が参加する機会に盛り込んだ。実施時は事前の予算計画書をもって実施できた。また実習協議会などの機会を利用してパンフレットを持参して説明し、学部・大学院の広報を行い、大学院生2名の受験につながった。</p>	10

<p><b>【1-3 教育課程への反映】</b></p> <p>◎地域看護研究研修センターを中心に学科の特色を生かした公開講座などの企画・実施</p> <p>1) 研修センター事業</p> <p>実習指導研修会 1 回、公開講座 2 回、健康教室 2 回を計画し、大学院生募集は、集客を上げるため、指導者研修や公開講座等の看護職が参加する機会に盛り込むこととする。また、実施時は事前の予算計画書をもって実施にあたることとした。様々な機会を設け、学部・大学院の広報を行い、地域へのアピール、地域貢献につなげる。</p> <p>2) 新カリと旧カリとの円滑な移行 (単位の読み替え) に努める。講義・演習に加え、特に臨時実習時間数の欠如が発生しないように実施確認を行う。</p> <p><b>エビデンス</b>：研修センター事業報告書</p> <p>2) 新たになる「あすなろう」教育のボランティアの推進や看護学科スケジュールを見直し、本学の建学の精神が学生や地域にアピールする。</p>	<p><b>【1-3 教育課程への反映】</b></p> <p>1) 計画通り、地域看護研究研修センター主催の公開講座 (リンパケア・避難所シミュレーションゲーム) として、実習指導者研修会を 1 回、地域住民を対象とした健康教室を 2 回 (パパ・ママ教室) 開催することができ、看護専門職者のスキルアップとして地域貢献につながっている。これらは専任教員の専門性、研究テーマと一致しており、講義・演習や、ボランティアに参加する学生への教育課程への反映にもつながっている。また、ようかん祭りでの学生によるハンドマッサージの実施、QSP 健康ウォークにおいて看護学部はハンドマッサージ体験・血圧測定ブースを出展、佐賀県 presents SAGATOKO マッチ健康測定ブース出展は、学生の日ごろの練習成果を地域に還元するという双方向的な反映につながった。</p> <p>2) 新カリと旧カリとの移行については問題なく進行し、次年度の読み替え科目の確認も行い、学科会議で承認された。</p>	10
<p><b>【1-4 研究活動への反映】</b></p> <p>◎大学が進める研究への参画及び推進</p> <p>①大学が進める研究を遂行する</p> <p>②科研応募率 100%をめざす</p> <p>③科研費は継続も含めて採択率 80%以上をめざす</p> <p>④学会発表・論文投稿・紀要投稿を積極的にを行い、本学看護学科のアピールを行う。</p> <p>⑤学科紀要の投稿率を上げる。</p> <p><b>エビデンス</b>：科研応募状況・採択率、紀要の投稿率</p>	<p><b>【1-4 研究活動への反映】</b></p> <p>① 大学が進める研究の新規採用はなかったが、過去採択された教員の研究は継続して遂行されている。</p> <p>② 科研の応募率は、休職中の教員や退職を控えた教員を除くと、92%であった。応募しなかった教員への注意喚起は行っており、次年度の応募を徹底する。</p> <p>③ 新規採択はなかったが、継続課題は 7 件 (25%) であり、目標には届かなかった。目標値の再設定が必要である。</p> <p>④ R6 年度看護学科紀要への投稿・掲載数は 4 編であり、過去最も多くなった。大学院修士課程の修了生の投稿もあり、今後も継続をめざす。</p>	7
<p><b>【1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業】</b></p> <p>◎九州西部地域の大学・短期大学連携事業への積極的な参画</p> <p>①QSP (九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム事業)「ウォーキングで健康イノベーション」地域住民の疾病予防・健康増進事業「QSP 健康ウォーク 2024 in 佐賀」へ参加し、看護学科ならではのブース運営を行う。</p> <p>・小城市との包括連携協定では、高校との連携は他校への拡大を検討し、このほか、可能性のある他の分野もアプローチし、学修の場や実習・ボランティア活動等へつなげる。市のイベント：ようかん祭り等への学生の主体的な参加協力により地域への周知と地域貢献を行う。</p>	<p><b>【1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業】</b></p> <p>QSP 健康ウォークにおいて看護学部はハンドマッサージ体験・血圧測定ブースを出展した。ウォーキング参加総数 253 名のうち 78 名の参加者へ 5 名のボランティア学生がハンドマッサージを実施し、多くの参加者から好評を得ることができた (エビデンス：R6 年度第 18 回学科会議資料)。</p> <p>・西九州大学・小城高校・牛津高校・小城市の包括連携協定校への講義の実施 (看護学へのとびら) を行い、5 名の受講があった。そのうち 3 名が推薦入試での入学生となった。また、小城市との包括連携協定の初めての試みとして、学友会主催のスポーツ大会を小城高校・牛津高校・小城市役所職員との交流イベントに格上げして実施し、全体で 84 名の参加があり、今後も継続したいとの意見が多数寄せられた (エビデンス：R6 年度第 23 回学科会議資料)。また、ようかん祭りでの学生によるハンドマッサージの実施では 138 名の来場者があり、10 名のボランティア学生が対応して大変好評であり、大学の周知を図ることができた (エビデンス：R6 年度第 17 回学科会議資料)。</p>	10

<p><b>基準2. 学生</b>  《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》</p> <p><b>【2-1 学生の受入れ】</b></p> <p>◎学科の教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの検討  ◎学科のアドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れとその検証  ◎入学定員確保に向けた広報活動の充実・強化</p> <p>①総合型選抜の実施  ②指定校枠の拡大（受験・入学実績のある高校中心）  ③出張授業、出前講座は原則断らずに実施する。  ④学生主体のOCの継続  ⑤エルダーカレッジの講座担当を継続し、受講者に看護学科のアピールを行う（孫や知人への推薦をして頂けるように）。  ⑥リケジョ、SSHなどへの講師派遣によって、高校生への看護学科の周知を図る。  ⑦新規重点事業として、学園祭における子宮がん検診を無料で行い、高校生、地域住民へ看護学科の周知や関心を深めてもらう機会とする。  ⑧入学生と在学生在を対象に、オープンキャンパス、学校訪問、広報誌、パンフレット、SNSなどについて、入学のきっかけとなった内容を調査する。  ⑨推薦入試合格対象者の学力分析（入試広報との連携）  ⑩広報係を設け、学生の参画により新たな情報発信によるSNS等の広報活動を行う。</p> <p><b>エビデンス</b>：OC参加人数、指定校一覧、</p> <p><b>【2-2 学修支援】</b></p> <p>◎大学院生を対象としたTA導入検討・活用による学修支援の充実</p> <p>①対象となる院生が入学した場合、実施を検討する。  ②新設されるダイバーシティセンターに看護学科からも委員を出し、障害のある学生への対応について等の学修支援の体制化を図る。学科内においても学修支援について検討し統一を図る。</p> <p><b>エビデンス</b>：障害のある学生への対応について等の学修支援の体制化資料</p>	<p>① 総合型選抜の入試タイプ=育成型・課題探求型は、同様の受験対策を講じるため、其々の入試の特徴がみられなかった。受験者全員が合格となった。</p> <p>② 指定校の拡大は、学部長学科長と過去の出願者数と偏差値から、指定校の人数枠を拡大した。高校側の要請に応じ、柔軟に実施した。</p> <p>③高校訪問・出張講義・進路ガイダンス（29件）の依頼はすべて引き受けた。OC、国スポ・全障スポ、学園祭の子宮がん検診などの機会をとらえて、学生を積極的に参画させることにより、受験生とその保護者および地域住民に本学科アピールを行った。</p> <p>④⑧学生とチューター教員と協議しながらOCの実施内容を決めた。  佐賀キャンパスで行われた9月の合同OCは、申込数17名に対し参加数26名と当日参加者が多かった。小城キャンパスで行われた、2024年度夏のOC参加者は、高校生が総計135人、同伴者が総計77人である。2023年度の参加者数は高校生150人、同伴者101人と比較すると減少した。昨年度の看護師国家試験結果が影響し、OCに複数回参加した高校生が受験に繋がらないケースが見られた。OC参加者の満足度は、学生の主体的な活動が好印象に繋がりが高かった。西九州大学を受験大学に選んだ理由として、OCが多いことが明らかとなった。学生の主体性には個人差があるため、教員は、学生の日々の学校生活の様子を観察し、主体性が高い学生を選択する必要がある。</p> <p>⑩ 入試広報委員会での協議は、学部長・学科長へ随時報告している。学部長・学科長が学外へ発信する担当教員を指名し、遂行している。</p> <p>⑦OC、国スポ・全障スポ、学園祭の子宮がん検診などの機会をとらえて、学生を積極的に参画させることにより、受験生とその保護者および地域住民に本学科アピールを行った。</p> <p>◎大学院生を対象としたTA導入検討・活用による学修支援の充実</p> <p>①看護学専攻修士課程院生4名（1年次1名2年次3名）はすべて社会人学生であることから、学修支援の活用には至らなかった。</p> <p>②ダイバーシティセンターは、今年度より新設され、障がい学生支援、留学生支援、マイノリティ支援、学生ピアサポーター、学生相談、男女共同参画の6部門で活動する体制となった。学部の域を超え、活動計画を作成し、実施を進めている。特に学科においては合理的配慮が必要な学生支援について、本人の申請から、本人・保証人とチューター教員との複数回の面談を経て、大学内での支援が得られるように情報を集約し、全学共通科目および各学科ですべての教員が学習支援が可能となるようにシステムを検討した。</p>	<p>7</p> <p>8</p>
---	---	-------------------

	<p><b>【2-5 学修環境の整備】</b></p> <p>◎実習病院との連携</p> <p>◎文献検索等による図書館の利活用の推進</p> <p>◎講義・演習・実習における適切な学生数の管理</p> <p>①実習施設の変更確認とその理由（実習目標の達成に効果的であったのか）</p> <p>②R 5 年度に購入した「ふりかえ郎」の活用を推進し、シミュレーション教育能力を向上する。</p> <p>③継続して Teams を活用し、講義準備の利便性を図る。</p> <p>コロナ禍で実習病院でも新人看護職員の教育に課題があると言われるが、離職など例年に比べると多いようで、対策となる里帰り研修等の取組はまだ出来ていないが、病院との連携を行い、今後、時期や内容等を検討していく。</p>	<p><b>【2-5 学修環境の整備】</b></p> <p>①実習施設の変更確認とその理由</p> <p><b>【療養支援看護学Ⅱ：慢性期】</b></p> <p>学生の学力レベルと学習能力に応じた実習施設の再選定を行い、療養支援看護学実習Ⅱ（慢性期）では、2か所（唐津河畔病院・江口病院）を新規開拓の施設として追加した。地域の特性にあった地域包括ケアと地域生活と入院生活につながる視点、また、多職種連携の学びとして学習効果が高かった。しかしながら、唐津方面は距離が離れており、今後できるだけ学習効果の向上を目指しながら、近場の実習施設の開拓も検討していく必要がある。</p> <p><b>【在宅精神看護学実習】</b></p> <p>新カリ移行に伴い、在宅看護学実習の単位数が増えたため、地域包括支援センターでの実習が1週間追加となった。臨地での実習は、学生が積極的に実習に取り組み、学びの意義は深かったようだが、臨地での実習が2日間と短かった点と、地域包括支援センターでの実習目標と訪問看護ステーションでの実習目標とのつながりがみられなかった点を実習指導者から指摘を受けた。今後は、実習日数と実習目標の見直しを検討し、改善していく必要がある。</p> <p>②スキルズ・アルバム振り返ろうと SCINARIO との接続による接続の不具合があり、京都科学により、接続部品交換が完了し、シミュレーション演習に活用できる準備が整備された。今後は各領域の演習での積極的な活用をすすめていく。</p> <p>③実習記録配布、実習オリエンテーションスケジュールおよび実習に関わる学生への伝達は、Teams を活用し効率化が図れた。また、実習に要する宿泊希望者の調査や登録も、Teams を活用し集約化でき、事務総務課との連携もできた。実習病院との連携による卒業生の里帰り研修の取り組みまでは、今年度も至ってはいないが、実習施設からの本学教員への研究指導依頼や協力と本学で行なわれている就職支援説明会への実習病院への参加を依頼し、実習に関わる本学との連携も深めていく。</p> <p>・情報関連では、実習用 USB 活用への移行、コロナ・感染症関連では 5 類移行に伴う規定、実習要綱、感染症ファイルの改訂および実習誓約書の改定を行い、各受け入れ実習施設と協議を行い、連携に努めた。また、インシデント・アクシデントレポートは、一体化し、電子化していく方向で進めていくこととなったが、内容の改定については次年度以降の継続審議となった。遠方への実習施設への学生支援では宿泊費の補助は上限 5 千円での支援を行った。さらに学力不足や個別的な指導が必要となる実習学生については実習申し送り簿を作成し、教員間で学生指導方法などの情報共有に努めることができた。R6 年度の目標はおおむね達成できたと判断する。今後は、インシデント・アクシデントレポートの提出の流れなど、明確化されていない規定を修正していく必要がある。</p> <p>・4 年次担当実習計画は次年度より新カリキュラムの看護学統合実習への移行に伴い、4 年生全員（看護師課程、保健師課程、養教課程）分の実習病院の確保と、旧カリキュラムの看護管理実習、在宅看護学実習および関連職種連携実習を一部継続するため、その施設確保に取り組んだ。看護学統合実習</p>	<p>9</p>
--	---	--	----------

	<p>◎保健師課程履修学生に対しては、看護師・保健師の二つの国家試験に合格する能力が必要となるため、公衆衛生看護関係の全ての講義・実習後に、国家試験出題基準に関する課題を与え、能力向上を図る。</p> <p>◎教職課程履修希望学生に対し、機会を捉え履修指導を強化する。また、集団及び個別緒指導を徹底し、継続的に教員採用試験合格者の輩出を図る。</p> <p><b>【2-6 学生の意見・要望への対応】</b></p> <p>◎授業評価アンケートの分析を行い、その結果を学修支援に活用</p> <p>①各教員が申請した時期に授業評価アンケートを行い、評価を提出し学修支援に活用する。特に実習科目の回答率を向上させるために回答時期の延長を図る。</p>	<p>については、今年度の看護管理実習中から依頼した既施設では、実習受け入れ期間の拡大や受け入れ人数の増員が比較的スムーズであったが、新規開拓が進まなかった。プロジェクトチームの主導により、候補施設を挙げてもらい交渉にあたり12月末に107人分の実習病院の確保ができた(既施設9、4年次受け入れ未の既施設2、新規施設1、合計12施設)。</p> <p>・保健師課程は、今年度から2年修了時の選抜要件を総合GPAが2.7以上として、25名が3年次の課程へ進級し、安定した成績を保っている。また、4年生は21名が課程履修し、そのうち5名が行政保健師、1名が病院保健師としての就職し、地域保健の担い手を輩出することができた。</p> <p>・公衆衛生看護実習計画は、9月に実習施設の受け入れ希望及び学生の居住地・交通手段調査等を行い、その情報をもとに実習施設を決定していった。公衆衛生看護実習は、宿泊費等の支給はないため、学生の状況等をできるだけ考慮して実習先を決定し、11月には実習先を決定および受け入れ施設への連絡を行っている。産休育休等で指導できる人員が不足のため、安定した実習受け入れをして頂けない場合があり、毎年受け入れ施設確保には苦慮している。</p> <p>・1302講義室および3201講義室のWi-Fiの不具合については、今年度予算で改善工事を行い、マイク音声は講義室内であれば途切れることなく届くようになった。</p> <p>◎教職課程履修生には前期後期の履修科目登録時に教職ガイダンスを行い、履修指導を徹底した。教員採用試験対策を前期に3・4年生を対象に4月より15回、6月からは既卒生も参加できるように土日に7回、計22回実施した。しかし、佐賀県の養護教諭採用枠が9名と減少したこともあり合格者の排出には至らなかった。そのため、9月からは1回/週の採用試験対策を実施している。</p> <p>アンケート入力は今学期同時期に期間を設定されており、入力期間の延長は原則受け付けられず、開始時期を早めることはできなかった。実習が終了していない場合に特例として終了時期を延長できたが、数日間のみであった。</p> <p>授業評価のアンケート分析を行うためにも回答率の向上が必須となるが、R6前期は、24科目中9科目が低回答率(60%未満)となった。後期の集計報告はされていない(R7.2月27日現在)。前年度と同様に低回答率の半数以上が実習科目であった。また、前期の実習科目は4年次に集中している。集中講義終了後、5月中旬には実習が開始されるため、入力期間とは乖離している。したがって全学FD委員会が推奨する「講義最終日に時間を確保して入力を促す」対策は効果的ではなかった。4年次前期の講義についても1科目を除き低回答率である。Teamsやメールを活用し注意喚起をする他に、4年次が1週間に1回登校する日と入力期間を合わせて、まとめて回答するしくみを作り徹底する対策を検討する。また、4年次の実習前の講義でも回答率を確保した1科目の教員の取り組みを参考に対策を実施する必要がある。</p> <p>なお、アンケートの分析結果を学修支援に活用できたかの評</p>	<p>8</p> <p>8</p> <p>7</p>
--	--	--	----------------------------

	<p><b>基準3. 教育課程</b>  <b>《卒業認定、教育課程、学修成果》</b>  <b>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</b>  ◎学科の教育目的をふまえたディプロマ・ポリシーの検討  ◎各基準の再検討と周知  ◎各基準の厳正な運用  ①各種ポリシーの見直しはR4～5年度にかけて完了・周知完了しているため、見直しは不要である。  ②進級判定・卒業判定を厳正に行う。  ③成績低迷学生には、早期から保護者と連絡をとり、大学・家庭が連携した学修支援体制が取れるように努める。  ④新カリキュラムと旧カリキュラムの移行が支障なくスムーズに行える。  ⑤3年次実習の新カリキュラム移行がスムーズに行える。  ⑥保健師課程・養教課程の選抜を含む教育が滞りなく行える。  ⑦次期カリキュラム改正を見据えた情報収集  ⑧看護師国家試験合格率の向上（目標 100%、最低新卒 95%以上）に向け、国試対策委員中心に、全教員で学修支援に取り組む。</p> <p><b>【国家試験対策】</b>  1) まずは教員主導でもよいので「一致団結して合格しよう！」</p>	<p>価は実施していない。</p> <p><b>基準3. 教育課程</b>  <b>《卒業認定、教育課程、学修成果》</b>  <b>【3-1 単位認定、卒業認定、修了認定】</b>  ◎学科の教育目的をふまえたディプロマ・ポリシーの検討  ① 完了している  ②今年度10月より進級制限が撤廃された。これに伴う各種規程の見直しを行い、全学教務委員会、全学教授会で承認を得た。またそれに伴う学生指導（保護者対応）について修正を行い、学科会議で承認を得た。卒業判定は、対象学生全員の単位認定一覧を確認し、厳正に行い、91名が認定された。  ③昨年度より、成績低迷者の保護者への連絡について運用を開始し、チューターと保護者との直接的な対話の機会が増え、大学⇄家庭での情報交換が増え、問題発生時の対応がスムーズとなった。なお、進級制限撤廃に伴う学生指導（保護者対応）について修正を行い、学科会議で承認を得た。  ⑤新カリになり、実習時期を唯一変更した在宅看護学実習（4年→3年）では、指導する教員側に学生レディネスを再認識する必要があり、指導に苦慮することがあった。またこれまでになく実習施設からの問題提起（学生の態度、巡回指導方法等）があり、担当教員に改善を求められることになった。次年度の在宅看護学領域はフルメンバーチェンジとなるため、十分な引継ぎ準備が必要である。また、原級留置であった学生については、問題なく実習を終了することができた。  ⑥看護学部を進級制限廃止に伴い養護実習要件も変更が必要となり、選抜基準を養護実習要件に合わせ「免許要件科目のGPAが2.2以上」と改定した。適用となる次年度の学生には選抜試験の説明会にて周知徹底を図った。選抜試験や教職科目の履修については、履修登録時に教職ガイダンスを実施し指導を行った。  また、保健師課程は、今年度から2年修了時の選抜要件を総合GPAが2.7以上として、25名が3年次の課程へ進級し、安定した成績を保っている。また、4年生は21名が課程履修し、そのうち5名が行政保健師、1名が病院保健師としての就職し、地域保健の担い手を輩出することができた。  ⑦看護学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する情報が、適宜メール等で全教員に配信された。今回はコアカリキュラムが変わり、その内容については3月に公開される等の情報が全教員に共有された。次年度の教務委員会委員が中心になって検討していくこととなっている。  ⑧国試合格率向上に向け、専任教員による学習会、毎月の模試の実施、保護者への協力依頼、チューター教員による個別の学習指導、特に成績低迷者への強化学修に注力して実施した。  国家試験合格率については、看護師（新卒）：合格90名/91名（98.9%）、保健師（新卒）：合格18名/21名（85.7%）であり、看護師は全国平均（新卒95.9%）を上回っており、目標は達成した。保健師の全国平均は、新卒96.4%であった。</p> <p><b>【国家試験対策】</b>  ・実習で忙しい教員が多く教員全員の気運の盛り上げはでき</p>	<p>10</p> <p>8</p>
--	--	--	--------------------

<p>という気運を盛り上げる。</p> <p>2) 個別または小グループ学修でスタートする(当面2日/週)。国試委員だけではなく、全教員で指導に当たる。</p> <p>2) 学修習慣・学修方法の確立に向けた指導。特に問題解説からの発展学修方法を指導する。また、学生と教員での模試結果の振り返りとやり直しの徹底に努める。</p> <p>3) 月一回ペースの模試の実施により、学修成果の確認と指導を行う。</p> <p>4) 業者及び外部講師による特別講義の実施継続する。</p> <p>5) 学修会に来ない・自己効力感の低い学生などの情緒面の支援。必要時保護者と連絡を取り、心理的支援を依頼する。</p> <p>6) 不合格であった学生の支援(学修継続状況や勤務状況の把握、模試案内、教材紹介、受験手続)をする。</p> <p><b>【3-2 教育課程及び教授方法】</b></p> <p>◎学科の教育目標等に沿ったカリキュラム・ポリシーの検討</p> <p>◎カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの整合性の検証</p> <p>◎学科のカリキュラム・ポリシーに即した体系的教育課程の編成</p> <p>◎教授方法の工夫・開発と効果的な実施に向けたFD研修などの実施</p> <p>①各種ポリシーの見直しはR4～5年度にかけて完了・周知完了しているため、見直しは不要である。</p> <p>②教育の質の向上をめざした、看護学科主催の研修会などを開催し、教授方法の向上に努める。</p> <p><b>【3-3 学修成果の点検・評価】</b></p> <p>◎三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の再考と検証の実施</p> <p>◎学生の授業評価の継続実施と授業へのフィードバックを行うシステムの構築及び実施</p> <p>①ディプロマポリシーが変更になったことに伴い、R5年度に学修成果のルーブリックを修正したため、各学期終了後の成果入力が滞りなく行えるように指導する。</p>	<p>なかった。しかし学生の協力が得られたことが良かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験は9回実施した。模擬試験後合格ラインに届かない学生(必修40点未満、一般状況160点未満)に対しては、模擬試験終了後に強化学習会を国試対策委員で行い、学修習慣・学修方法の確立に向けた指導を行った。また模擬試験終了後にチュータ教員指導により振り返りとやり直しを行った。</li> <li>一覧表にして全教員が確認できるようにした。</li> <li>・成績低迷者には委員長の個別面談を実施し、心身の状態、精神的ケアを行って、大学に登校して学修するように説明し、徐々に学習会の登校者数が増加した。</li> <li>・業者1回、外部講師3名、全教員で実施して52回の特別講義を行い、常に95%の出席率があった。また朝起き勉強会は15回実施し、75%の出席率であった。</li> <li>・チュータと国試対策委員とで学生の情報共有を行うようにしたが十分ではなかった。チュータ教員には成績低迷者に対しては父兄との連携をもち対応を依頼した。学修会に来ない学生には声をかけて国試対策委員が学修の指導を行った。</li> <li>・不合格者の学生支援は、チュータ教員で実施することとした。</li> <li>・国試合格率向上に向け、専任教員による学習会、毎月の模試の実施、保護者への協力依頼、チューター教員による個別の学習指導、特に成績低迷者への強化学修に注力して実施した。</li> </ul> <p>国家試験合格率については、看護師(新卒):合格90名/91名(98.9%)、保健師(新卒):合格18名/21名(85.7%)であり、看護師は全国平均(新卒95.9%)を上回っており、目標は達成した。保健師の全国平均は、新卒96.4%であった。</p> <p><b>【3-2 教育課程及び教授方法】</b></p> <p>①完了している</p> <p>②2025.3.14に特任教授 鷹居樹八子先生を講師とした「変革の時代における看護系大学教員のあり方」を実施し、看護系大学教員としての素養、教育者としての自覚、自律についてブラッシュアップする機会を得た。</p> <p>①今年度より、学生と学修成果を双方確認しながらの面接が義務化されたため、学期終了後の成果入力の確認が行えるようになった。</p>	<p>10</p> <p>10</p>
	<p>当該委員会 達成度集計</p> <p>達成度平均点</p>	<p>122/140</p> <p>87 / 100</p>

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者    ◎印は優先事項    達成度は x/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
デジタル社会 共創学環 (学環長)	<p>①教育コンテンツの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次から展開される各種 PBL 実施のため入念な調査・計画をおこなう。</li> <li>・インターンシップ実施のための調査・計画をおこなう。</li> <li>・留学を円滑に実施するための調査・計画をおこなう。</li> <li>・各種資格取得を可能とするための調査・計画をおこなう。</li> </ul>	<p>2年次から開始予定のPBLに関しては、1年後期のあすなろうを活用してプレPBLを実施することができた。留学、資格取得に関しては対象学生に調査を実施することとしている。</p>	8
	<p>②キャンパスライフの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学環学生に日常的な学習習慣を獲得させる。また、日常的な居場所も確保する。</li> <li>・ダイバーシティ・センターと協働し、アルバイト、日常生活など、留学生に対する生活支援を充実させる。</li> <li>・学環が一体となれるようなイベントを企画実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学環学生の居場所としては演習室を確保することができた。日常的な自習等スペースとして活用が行われている。</li> <li>・留学生のアルバイト斡旋は十分にできている。しかし、留学生の中には仕事になじめない学生もいた。そのような学生への支援が課題である。また、日本語学習支援を学環独自で行っているが、学習に対する熱意が低いものが散見された。日本語学習に対する支援は今後も続けていく必要があるが、熱意のない学生には何らかのペナルティも必要である。留学生と日本人学生との親和性を涵養するイベントを計画したが、悪天候のため実施できなかった。次年度ぜひ実施したい、</li> </ul>	6
	<p>③募集広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学環の広報につながる多様なイベントを実施していく。</li> <li>・総合型入試にバリエーションをもたせ、早期（6～8月育成期間、9月出願）からの育成型入試を実施する。</li> <li>・高大連携事業（ポルタ等）への積極的に参加する。</li> <li>・SNS等を活用した広報活動を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型入試の早期化によって学環への日本人学生の応募は伸長した。次年度もこの方式を強化したい。半面、年明け入試の応募者が伸び悩みを見せた、留学生の応募は昨年並みであった。</li> <li>・高大連携事業に関しては実施できたが、応募者数が予想を下回った。一方で、北陵高校とは連携授業を実施し多数の高校生に参加いただいた。佐賀清和高校のポルタでも高校生向けのe-sports講座とドローン講座を実施した。唐津青翔高校の教員向けe-sports講座も開催し広報に努めた。</li> <li>・学環広報につながるイベントとしてeスポーツイベントに学環として複数回参加することができた（佐賀紳展、全国都道府県対抗e-sports選手権、TAKEOシルバーe-sports）。また本学及び鹿島デジタル推進協会との共催で社会人向けデータサイエンス講座を開催することもできた。</li> </ul>	8
		当該委員会 達成度集計	22/30
		達成度平均点	73/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度は x/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
教務委員会 (委員長)	○学修支援 ・教員と職員との連携により、各種資格取得に係る履修方法などのガイダンスを充実する。 ・ダイバーシティセンターと連携して、障がいのある学生や留学生への支援を進める。	・資格試験に係るガイダンスを複数回実施し、既卒者に対しても個別に対応した。 ・ダイバーシティセンターならびに学生支援課と連携しながら非常勤講師へ配慮希望学生の情報提供を行った。また、配慮希望学生への要望に応じて支援を進めた。	10
	○学修環境の整備 ・学部長会議の決定に沿って教室等の整備を行う。	・学部長会議の決定はなかったものの、個別にプロジェクター等の修理を行った。	10
	○学生の意見・要望への対応 ・学修実態調査等の教育に関する結果について経年変化を含めて検討し、学生の実態を把握するとともに、適切な学修支援の計画を策定する。	・学修実態調査等を行い学生の実態を把握したが学修支援計画の策定までには至っていない。	5
	・学生支援課と協力し、学生生活実態調査に学修環境に関する評価項目を加え、その結果を分析し、学生の意見に沿うよう立案・実施する。	・学生生活実態調査に学修環境に関する評価項目を加えて調査を行った。その結果については教務委員会に報告した。	10
	◎教育課程及び教授方法 ・各学科の副専攻プログラムについて検討し、開設する。	・デジタル社会共創学環において副専攻プログラムを立ち上げた。	5
	・学修実態調査を分析し、主体的学修の向上を図る。	・学修実態調査と学生生活実態調査を IR コンソーシアムが行う調査に一本化し、他大学の状況と比較しながら教育課程の編成に役立てることとなった。	7
	・R6 年度国民スポーツ大会等への学生サポーターの対応について、公欠対応等を円滑に実施する。	・学生支援課と協議して準備を進め、円滑な公欠対応等を行った。	10
	◎学修成果の点検・評価 ・自己の成長の視覚化が可能となるディプロマサプリメントの作成が行える体制を整え、実行する。	・ディプロマサプリメントの作成が行える具体的な体制を整えた。	10
	○教学マネジメントの機能性 ・ディプロマ・ポリシーに沿った教育成果になっているかを分析し、その結果を点検・評価運営委員会で評価する。また、点検結果を受けて、内容改善策を実施する。	ディプロマ・ポリシーに沿った教育成果になっているかを分析し、その結果を点検・評価運営委員会で評価したうえで改善を行った。また、ディプロマ・ポリシーの改訂を行った。	8
	○学生を対象とした調査からデジタル社会共創学環のカリキュラムの改善を図る。	・外国人留学生の日本語力向上のために新たに日本語能力別の日本語科目を設けた。	8
		当該委員会 達成度集計	83/100
		達成度平均点	83/100

## 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者    ◎印は優先事項    達成度は x/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
共通教育 運営委員会 (委員長)	◎高大接続科目の円滑な実施に向けて体制を整備し、適切に運営する。	・高大接続科目の円滑な実施に向けて連携校の担当者と密に連絡をとりながら運営を行った。受講者 48 名。	10
	◎共通教育科目「あすなろう」及びデータサイエンス科目（入門・演習）円滑に実施する。	・「あすなろう」及びデータサイエンス科目（入門・演習）を円滑に実施した。	10
	◎学科の枠をはずしたクラス編成での受講について調査を行い、改善点を見つける。	・共通教育全般に係るアンケートを実施し、満足度調査を行ったが肯定的な意見が多くみられた。	10
	◎R7 年度に向けて、共通教育科目の対面実施に係る調査・検討等を行い、実施体制及び環境の整備を進める。	・共通教育の対面実施についてアンケートを実施し、環境整備のための調査を行った。	10
		当該委員会 達成度集計	40/40
		達成度平均点	100/100

## 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度はx/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
教職課程 委員会 (委員長)	◎教職課程認定申請（小二免） ・スポーツ健康福祉学科において小学校教諭二種免許状の課程認定申請を行う。 ・R7年度からの円滑な実施に向けての準備を進める。	・小学校教諭二種免許状の課程認定申請を行い、認定を受けた。それをもとにR7年度からの実施に向けて規程等の整備を行った。	10
	◎教職センターを吸収し、その機能を引き受ける。	・業務の一本化と効率化を目的に教職センターの業務を精査して検討を行い、教職課程委員会にその機能を統合した。	10
	○教職履修カルテをデジタル化する。	・教職履修カルテのデジタル化を図ろうとしたが、実習校によってはパソコンが使えないこともありデジタル化を押し進められなかった。	2
	○市町村教育委員会および県教育委員会との連携を強化する。	・佐賀市教育委員会、神埼市教育委員会と教育実習会議を開催した。また、佐賀県教育委員会との連携・協議会も開催して意見交換を行い、さらなる連携強化を図った。	10
		当該委員会 達成度集計	32/40
		達成度平均点	80/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び担当	令和6年度検討および実施事項	令和6年度総括	達成度
学生支援委員会 (学生支援部長)	◎学生生活・修学支援 JASSO 奨学金（給付と貸与）採用学生において、出席率や成績不振により警告を受ける学生情報を教員と共有し、教員からの指導を促進し、廃止などで除籍へつながらないように努める。	2024年6月・12月に出席率や成績不振により警告を受けそうな学生情報を学科教員と共有し、教員から学修に関する指導を促進することで、奨学金の廃止などによる退学や除籍へつながらないように努めた。	9
	◎ダイバーシティセンターとの協力 ピアサポート制度導入や障がい学生支援について連携し、配慮が必要な学生情報の共有と、求められる必要な支援を検討・対応していく。	ピアサポート制度導入に伴うチラシ作りや配慮が必要な学生情報冊子の提供などに協力した。加えて、ダイバーシティセンター運営委員会の実施にも協力した。	9
	◎学生相談 UPIを実施、学生相談室（CS）と連携し、配慮が必要な学生の実態把握、支援内容の検討を行う。	前・後期ガイダンスにwebでUPIテストを実施し、その回答率は、前期84%、後期77%と高く、学生相談室へ情報を提供し、学生の実態把握を行い、支援が必要な学生抽出と必要な支援へ協力した。	8
	◎学友会関連 ・学友会と学生支援課で協力し、学友会の役割や取り組みについて検討していく。	委員が毎年交代するため、引き継ぎを含め継続的な取り組みが出来ないことは例年の事であるため、学友会へ協力しつつ、今年度もサークル等への支援をおこなった。	6
	◎学園祭 ・今年度はSAGA2024開催年ということで、11月30日、12月1日に予定している学園祭開催に向け、学友会と相談しながら進める。	SAGA2024（国・全障スポ）により例年の1カ月遅れかつ学生支援課主体で企画する中で、学友会を通じて協力学生を募り、学生の協力も得ながら問題なく実施できた。	9
	◎学生食堂 利用者を増やすため、西九大サポートと協力して改善に努める。	SAGA2024（国・全障スポ）へのサポーター協力学生へ学食利用券を配布し、学食利用の増加に貢献した。対象者延べ645名に対して配布率73.3%、利用率83.5%だった。	8
	◎学生就職支援 ・佐賀県内就職を促進するため、佐賀県内の求人開拓と、佐賀県内の求人情報を定期的に学生へ配信していく。	ポータルサイトのみならず、メールにて各学科の特性に合わせた佐賀県内の求人情報を学科ごとに定期配信し、佐賀県内就職率アップに貢献した。	8
	・インターンシップ情報の発信方法等について検討し、学生の就職支援の一環として、インターンシップ参加者を増やすことができるよう努める。	ポータルサイト等による情報配信により延べ27名（前年24名）の学生が九州インターンシップ推進協議会のインターンシップへ参加した。	8
	◎アンケート調査 ・後期ガイダンス時に学生生活実態調査を行い、調査レポートを作成し、教授会等で報告を行う。また、学生向けレポートを作成し、学生ポータルサイト等で共有する。なお、学生向けレポートの掲載内容は、学生支援委員会の中で検討する。	学生生活実態調査を後期ガイダンスに実施し、レポート作成と教授会等での報告を実施した。2025年度に学生向けレポート掲載に向け検討を進めた。	6
	・2024年2月に4年生を対象に卒業時満足度調査を行い、3月開催予定の「学長と卒業予定者との懇談会」で調査結果を共有し、次年度以降の改善に努める。	2024年3月5日（火）に開催した卒業予定者との懇談会での学生の発言より、唯一リハ棟におけるお弁当販売の種類を増やすなど改善できた部分はあるが、施設設備の改善やバス増便などは対応が難しかった。	6
◎AIチャットボット 教務課と学生支援課分で運用を開始したので、利用状況の分析を行い、Q&Aの充実を図る。加えて、入試広報課分の運用開始に向けて協力する。	利用状況データを教務課と入試広報課へ送付し、追加等の編集依頼をした。入試広報課では、入試に関する情報の追加をおこない、内容の充実が図れた。	7	
		当該委員会 達成度集計	84/110
		達成度平均点	76/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度はx/10

区分及び担当	令和6年度検討および実施事項	令和6年度総括	達成度
入試広報委員会 (委員長)	<p>◎入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p><b>【到達数値目標】</b></p> <p>①入学者数：540名 ②志願者数：950名 ③OC参加者数：全体2,000名 (うち生徒数1,200名)</p>	<p>◎入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持</p> <p><b>【数値目標に対する結果】</b></p> <p>① 入学予定者数：490名(3/6現在) ② 志願者数748名(3/6現在) ③ OC参加者数(秋OC含む) 延べ1,418名(うち生徒数912名)</p> <p>《R5同日比》 入学予定者数：443名(3/7現在) 志願者数727名(3/7現在) OC・学校見学参加者数 延べ1,537名(うち生徒数936名)</p>	7
	<p>◎ <b>【戦略的な募集広報活動の推進】</b></p>	<p>◎ <b>【募集広報の範囲、対象、方法の再構築】</b></p> <p>例年より早い段階での募集広報活動を各学科の協力を得て展開することができた。</p> <p>具体的には、高校教員対象説明会を5/16(木)に開催、またエリア毎に担当者を振り分けた一斉高校訪問を同じく5/13(月)から展開し、早期の学生募集活動を実施することができた。ただし、SNSでの広報については十分に発信することができなかった。</p>	7
	<p>・定員充足を目的とした入試制度の検討(継続)</p>	<p>・年内入試に重点を置き、特に総合型選抜3パターンを展開し、例年より3割程度アップの志願者を獲得できた。また、外国人留学生オンライン型入試においても、早期に募集広報活動ができ、2割アップの志願者を獲得することができた。ただ、一方で年明け入試の志願者が減少した。</p>	7
		当該委員会 達成度集計	21/30
		達成度平均点	70/100

## 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度はx/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
図書館 (委員長)	◎ 図書館機能の充実 【到達目標】		
	① 電子化の進展と学術情報流通の変化への対応 (継続)	①福岡県佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会にてオープンアクセス及びオープンサイエンスをテーマに他大学と意見交換を行った。引き続き情報収集を行う。	8
	② 学習支援及び教育研究活動への支援 (継続)	②新入生及び在学生に利用指導及び文献検索の指導を行った。新入生用の「図書館利用しおり」については、留学生対応としてルビの付いたものを作成した。 機関リポジトリでは紀要論文の公開のほか、長崎短大や企業との産学連携によるレンビ集の公開など、研究活動の公開にも注力した。	9
	③ 図書館予算の効率的かつ計画的な執行 (継続)	③各学科図書委員に四半期ごとに当該学科の予算執行状況の周知を図り、予算の計画的執行を促した。	7
	④ 神埼キャンパス及び佐賀キャンパスの図書の整理及び3キャンパスにおける図書収容能力の確保 (継続)	④神埼キャンパスにおいて 144 冊、佐賀キャンパスにおいて 706 冊 (大学 183 冊、短大 523 冊) 小城キャンパス 64 冊の図書等の除籍を行い、収容能力の確保を図った。	9
⑤ 佐賀キャンパスへの業務サポート体制の構築	⑤丸善雄松堂から西九大サポートへ業務を移管したことから、業務を円滑に遂行できるよう引継等を行った。 西九大サポートに関することについては、西九大サポートと連携し、スタッフ面談等も実施しながら管理体制を整えた。	9	
		当該委員会 達成度集計	42/50
		達成度平均点	84/100

## 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者      ◎印は優先事項      達成度はx/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
リカレント 教育・研究 推進本部 (本部長)	<p>◎引き続き、推進本部と3センター長・室の会議を定期的に行い、本学のリカレント教育・研究のみならず、研究の推進のための課題について協議を行い、研究活動の推進にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私立大学等改革総合支援事業（タイプ3 地域連携）に採択にむけて努力する。</li> <li>・本学全体の「研究シーズ集」の刊行に着手し、産学官連携による共同研究を推進する。</li> <li>・コンソーシアム佐賀に参加し、本学としての役割を果たす。</li> </ul>	<p>◎推進本部と3センター長・室の会議を定期的に行い、研究の推進のための課題について協議を行い、研究活動の推進にあたることができた。科研の説明会の開催と、新規で科研添削を専門業者に依頼することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私立大学等改革総合支援事業（タイプ3 地域連携）に採択にむけて努力したが、結果として採択には届かなかった。</li> <li>・本学全教員の「研究シーズ集 2024」を刊行することができた。これにより産学官連携による共同研究を推進させることができた。</li> <li>・コンソーシアム佐賀に参加し、本学としての社会的役割を果たした。</li> </ul>	9
	<p>◎健康福祉・生涯学習センターは、令和5年度に着手した「健康福祉・生涯学習センター開設30周年記念誌」を発刊する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアム佐賀の大学・短期大学と連携して、共同Webサイト sagallege の運営に携わり、公開講座の受講者募集を強化する。</li> </ul>	<p>◎健康福祉・生涯学習センターは、令和5年度に着手した「健康福祉・生涯学習センター開設30周年記念誌」を発刊し、関係機関に配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアム佐賀の大学・短期大学と連携して、共同Webサイト sagallege の運営に協力した。</li> </ul>	10
	<p>◎健康支援センターでは、1) 運営委員会において昨年からの継続審議事項について検討し、①運用体制確立のため健康支援センター規程を完成させるとともに、②広報の一貫としてパンフレット及びHPのリニューアルを行う。2) 女性アスリート医科学支援事業及び生活習慣病予防・改善のための運動教室を継続するとともに、3) 新たな企画として、勤労世代をターゲットとした運動教室の実施についてのモデル事業を検討する。</p>	<p>◎健康支援センターでは、1) 運営委員会において昨年からの継続審議事項について検討し、①運用体制確立のため健康支援センター規程を完成させた。②広報の一貫としてパンフレットのリニューアルを行った。2) 女性アスリート医科学支援事業及び生活習慣病予防・改善のための運動教室を継続した。</p>	8
	<p>◎産学官連携事業として、本学と佐賀県との連携を継続し、TSUNAGI プロジェクト（大学連携推進事業）に取り組む。また、その他の共同研究（外部補助金）の採択件数を増大させ、産学官連携の推進をはかる。</p>	<p>◎産学官連携事業として、本学と佐賀県との連携を継続し、TSUNAGI プロジェクト（大学連携推進事業）に取り組んだ。また、その他の共同研究（外部補助金）の採択件数を増大させ、産学官連携の推進をはかることができた。</p>	10
		当該委員会 達成度集計	37/40
		達成度平均点	93/100

## 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者    ◎印は優先事項    達成度は x/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
国際交流 センター (委員長)	<p>◎学部学科・大学院の各特色を实践する教育機関としてのブランドの確立</p> <p>●国内外オンライン講座の開設など、国際化に向けた日本人学生の海外留学派遣及び海外からの留学生受け入れの両輪を促進していくことで、佐賀という地方にしながら、本学では国際的学びができるというイメージを発信でき、国際交流に興味がある新たな日本人学生層の獲得に繋げる (継続)。</p> <p>この具体的なアプローチは次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティセンターとも連携してオンライン講座 (例: 「アジア健康福祉講座」など) を開催し、佐賀県内及び周辺地域の高校、そして海外協定校と留学生受入エージェント経由で各国の日本語学校にも情報発信をし、幅広く学生募集につなげたい。</li> </ul>	<p>◎学部学科・大学院の各特色を实践する教育機関としてのブランドの確立</p> <p>●国内外オンライン講座の開設など、国際化に向けた日本人学生の海外留学派遣及び海外からの留学生受け入れの両輪を促進していくことで、佐賀という地方にしながら、本学では国際的学びができるというイメージを発信でき、国際交流に興味がある新たな日本人学生層の獲得に繋げる (継続)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香港で2回、マレーシアで2回、ベトナムで1回の計5回、主に現地の高校生を対象としたオンライン留学フェアに参加をして留学生募集及び本学の PR 活動を行うことができた。</li> <li>・3月、中国・寧夏理工学院日本語学科学生 (120名) を対象に、第1回日本文化社会講座を開講、10月には、田中・黒田・占部・院生が相手校を訪問し特別講義を実施、今後の学生教員の派遣交流が期待されている。</li> <li>・7月、厦門理工学院・厦門工学院から両大学合同の日本文化研修セミナー (教員4名を含め31名) を受入れ実施、また12月には、厦門工学院との間で交流協定を締結、さらに2名の教員が本学大学院博士後期課程を受験する予定となった。</li> <li>・9月、田中・山口剛 (大正屋社長)・周嵐 (本学講師) の3名が、貴州省での国際山岳観光連盟主催の国際シンポで講演、また交流協定校である貴州民族大学を訪問し交換留学生の質的条件のレベルアップを要請、さらに貴州财经大学や康養大学を表敬訪問し、今後の交流活動の活性化について意見交換をした。</li> </ul>	10
	<p>◎九州西部地域大学・短期大学連携事業への参画</p> <p>●本学の留学生と協力して佐賀県立佐賀商業高等学校と実施している「高大連携事業」を本学が協定を結ぶ高校に拡大し、国際交流に興味がある日本人学生層の獲得に繋げる。また県内外の各種国際イベントに外国人留学生と日本人学生とが共に参加参画する機会を増やす (継続)。</p> <p>この具体的なアプローチは次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティセンターとも連携して、プログラムをより充実できるように検討しつつ、開催実績がある2校への継続実施に加えて、同事業を県内の他の高校でも開催できるように働きかけ続ける。</li> <li>・ダイバーシティセンターとも連携して、従来同様、「さが国際フェスタ月間」(佐賀県国際交流協会主催) や「王仁公園アジアフェスタ」(神崎市主催) などの企画に積極的に参加をしていく。</li> </ul>	<p>◎九州西部地域大学・短期大学連携事業への参画</p> <p>●本学の留学生と協力して佐賀県立佐賀商業高等学校と実施している「高大連携事業」を本学が協定を結ぶ高校に拡大し、国際交流に興味がある日本人学生層の獲得に繋げる。また県内外の各種国際イベントに外国人留学生と日本人学生とが共に参加参画する機会を増やす (継続)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の複数の小中高学校 (佐賀県立佐賀商業高等学校、佐賀清和高等学校、小城中学校、川上小学校、神崎市立千代田中部小学校、神崎市立千代田西部小学校) の学生達に対して、本学留学生と異文化交流をする機会を提供した。</li> <li>・吉野ヶ里町主催の「外国人×日本人のしゃべり場」、鹿島市主催の「鹿島ガタリンピック」、佐賀青年会議所主催の「英語スピーチコンテスト」、SPIRA 主催の「日本語スピーチコンテスト」、多文化共生さが推進課主催の「外国人受け入れ企業向け異文化コミュニケーション向上セミナー」等、県内複数の自治体が主催した事業にダイバーシティセンターとも連携をして本学の留学生と共に積極的に参加をした。</li> </ul>	10

	<p>◎従来の手法にとらわれない積極的な ICT 活用を通じ、留学生募集から卒業後の就職までを見越した国際交流センターとしての国際的協働教育プログラムを確立する。</p> <p>●毎年度、大学（大学院含む）へ最低20名以上、短期大学部へ最低40名以上の新規留学生の「効果的」且つ「安定した」受け入れを目指す（継続）。</p> <p>この具体的なアプローチは次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、大学（大学院含む）にも留学生受入エージェントが正式に導入されたことを受け、入試広報課とも緊密に連携し、早めにエージェント各社に留学生募集のアプローチをしていく。また、特定の国・地域は一定のカントリーリスクが存在するため、「リスクヘッジ」と「多様性拡大」の観点から、ダイバーシティセンターとも協力し ICT の積極活用を通じた新たな留学生マーケット開拓を実施する。</li> <li>・ダイバーシティセンターとも連携し、Teams や ChatGPT 等のツールを引き続き積極的に活用し、常により効率的且つ効果的な運用の見直しを行う。</li> </ul> <p>◎本学で学ぶ外国人留学生とも連携し、ポストコロナ禍での新たな留学形態として、「オンライン留学と現地留学を組み合わせたブレンデッド・ラーニング型国際交流プログラム」を開発する（継続）。</p> <p>●毎年度、大学は最低100名以上、短期大学部は最低15名以上の日本人学生の海外派遣を目指す。</p> <p>この具体的なアプローチは次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は長引いたコロナ禍で学生達がリモート学習疲れを経験しているという憶測のもと、現地型のみでのプログラム提案を行ったところ、先の理由により結果的に費用が割高になってしまった。ただ、円安と世界的なインフレ傾向が今後もしばらくは続く恐れがあるため、費用対効果のバランスを考えたブレンデッド・ラーニング型国際交流プログラムをダイバーシティセンターとも共同して検討していく。</li> </ul>	<p>◎従来の手法にとらわれない積極的な ICT 活用を通じ、留学生募集から卒業後の就職までを見越した国際交流センターとしての国際的協働教育プログラムを確立する。</p> <p>●毎年度、大学（大学院含む）へ最低20名以上、短期大学部へ最低40名以上の新規留学生の「効果的」且つ「安定した」受け入れを目指す（継続）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度末時点で13社あるエージェントとの連携が有機的に機能し始めたことで、初めて大学と短大が両方とも目標の新規受け入れ人数を達成することができた。</li> </ul> <p>※以下、今年度5/1現在の人数</p> <p>正規留学生 合計157名（内、112名新規）</p> <p>&lt;内訳&gt;</p> <p>大学院・・・計9名（内、5名新規）</p> <p>学部・・・計25名（内、24名新規）</p> <p>短大・・・計123名（内、83名新規）</p> <p>非正規生 合計8名（内、名新規）</p> <p>&lt;内訳&gt;</p> <p>大学院研究生・・・計1名（内、1名新規）</p> <p>学部研究生・・・計1名（内、0名新規）</p> <p>交換留学生・・・計6名（内、6名新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Teams や ChatGPT 等のツールを活用してアルバイト管理、並びに留学生向け就職活動情報及びその他の学内外の各種イベント情報等を積極的に発信することができた。</li> </ul>	10
		当該委員会 達成度集計	40/40
		達成度平均点	100/100

## 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度はx/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
情報メディアセンター (センター長)	<p>[中期計画 1-2 学部学科・研究科のブランドの明確化および変化への対応] 学部学科・大学院の各特色を実践する教育機関としてのブランドの確立</p> <p>○ 質の高い学びを支える授業支援システムの導入に向けた検討 【具体的な取り組み】 令和6年度開設されるデジタル社会共創学環での「質の高い学び」実現に向けて情報基盤システムの一層の充実を図る。 特にデジタル社会共創学環「情報メディアコース」の演習で活用が予定される Adobe 社製の映像系・画像系ソフト及びその他の情報系コンテンツサービスのスムーズな導入を図る。その他次年度以降、演習で活用する機器等については情報システム室と連携して機種選定及び導入を図る。</p>	<p>情報システム室と連携して、R6 年度開設の「デジタル社会共創学環」(情報メディアコース)で必要なハードウェアの整備・運用を行った。 ・同コースの学生が主に2年次以降の演習科目で利用する映像計・画像系ソフトウェアの本格導入に向けて調査を行った。</p>	10
	<p>[中期計画 1-5 九州西部地域大学・短期大学連携事業] 九州西部地域大学・短期大学連携事業への参画</p> <p>○ QSP が連携・協力して実施するオンライン授業用教材の開発 【具体的な取り組み】 令和6年度開設されたデジタル社会共創学環では多くの留学生が学んでいる。当該学生の「質の高い学び」実現に向けて、関連する授業のデジタル化を進め、翻訳機能・字幕機能を活用したデジタルコンテンツを制作する。同様の環境課にある QSP 参加大学等での相互利用が進むように努める。</p>	<p>・デジタル社会共創学環で学ぶ留学生のための学修環境整備として、オリエンテーション時のスライドの翻訳、共通教育担当者に対する字幕の利用方法のマニュアル作成などを行った。 ・QSP 参加大学間で相互に利用できるような教材の開発は十分な成果を上げることは出来なかった。</p>	8
		当該委員会 達成度集計	18/20
		達成度平均点	90/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度はx/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
ダイバー シティ センター (センター長)	<p>◎各部門の仕事内容や役割を明確化していく。 ①各部門の仕事の内容を他部署と連携しながら明確にする</p> <p>②ダイバーシティセンター会議と運営委員を開催し、委員会の体制を確立する。</p>	<p>◎各部門の仕事内容や役割を明確化していく。 ① 各部門の仕事内容をダイバーシティセンター（以下センター）で決めることができた。</p> <p>② 運営委員会を開催することができた。しかし、部門が多く、委員は少なく、実動が難しい課題もあった。</p>	8
	<p>◎障がい学生への支援の流れを確立させる。 ①旧体制から新体制に移行し、コーディネータを含めた流れを確立させる。</p> <p>②3 キャンパスの障がい学生への支援の実態について情報を集約し、必要な支援を実施する。</p> <p>③合理的配慮の義務化に関して、施設設備の点検を行う。</p>	<p>◎障がい学生への支援の流れを確立させる。 ① 障がい学生への支援の流れを作成した。しかし、外部機関との連携や情報のやりとりによっては今後も変更していくことが必要と考えられる。</p> <p>②3 キャンパスの実態については、各キャンパスのセンター担当職員から随時報告がありその情報を集約している。今後さらに必要な支援を教職員で共有することが必要と考えられる。</p> <p>③施設設備の点検は行っているが、全学的にはまだできてないところもある。 学生からの聞き取りのなかで見つかった課題は、各課と情報共有をした。予算面で対応が難しいことについては、代替案を検討した。</p>	8
	<p>◎学生支援方法の新たな制度を作り、学生生活を支援する。 ①学生ピアサポーターを募集し、研修を実施し、学生の主体的活動を支援する。</p> <p>②学生相談を対面とオンラインを活用し、自立を促しながら生活を送れるように支援する。</p>	<p>◎学生支援方法の新たな制度を作り、学生生活を支援する。 ①ピアサポーターの意識調査をすることができた。個別支援を1例実施することができたので、必要な場合はスムーズに活動できるよう支援が必要である。</p> <p>②対面相談、電話相談が主で、オンラインの活用は無かった。</p>	8
<p>◎留学生への支援に取り組む。 ①学生の学修状況（特に語学）を把握し、それに応じた対応を考える。</p> <p>②学生の生活状況や悩み等をセンターで把握し、それに応じた対応を考える。</p>	<p>◎留学生への支援に取り組む。 ①留学生の学修状況については、留学生全体への日本語能力の調査を行い、学年別、専攻・学科・コース別に、各日本語レベルの人数分布を把握できた。</p> <p>②居住に関する悩みやアルバイトに関連した悩みは、相談があれば対応してきている。しかしながら、アルバイトルールに沿った活動ができていない学生が一定数いるため、如何に留学生の遵法意識を高めて、自主的な報告システムを構築していけるかが課題である。 それ以外に実施した留学生支援については下記の通りである。</p> <p>●就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/5 にアールアドバンス社と連携して、多文化コースと食健康コース1年生留学生50名向けにキャリアセミナー開催</li> <li>・11/8 にジョブカフェ SAGA と連携して、多文化コースと食健康コース1年生留学生50名向けに就職セミナー開催</li> <li>・アールアドバンス社と連携して多文化コース2年生留学生向けに個別就職マッチング実施。</li> </ul>	9	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉コース2年生留学生向けに、6/13、6/26、6/27の3日間の企業説明会実施</li> <li>・各種団体が主催する留学生向け企業説明会等の情報を日英中3カ国語にて適宜配信</li>   <li>●保険 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談があった短大部12名の留学生の医療費等の保険金請求手続き</li> </ul> </li>   <li>●安全・災害 <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/17に佐賀市生活安全課及び国際交流協会と連携し交通教室開催</li> <li>・8/26から約1か月間、佐賀広域消防局と連携し短大部留学生向けに防災学習開催</li> </ul> </li>   <li>●物資配布支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フードバンクさが等、外部機関より物資提供があった場合の留学生向け配布（計10回）</li> </ul> </li> </ul>	
		当該委員会 達成度集計	33/40
		達成度平均点	83/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者 ◎印は優先事項 達成度はx/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
SD委員会 (委員長)	<p>◎SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上、学園内の再編改革、新学部申請に伴う取組を研修会で教職員に周知する。また、産学官連携推進研修会を引き続き実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SD研修を年4回以上実施する。</li> <li>・QSP主催の研修に参画する。</li> </ul>	<p>SD研修会を以下のとおり4回開催した。</p> <p>①「これからの事務職員のあり方について」講師：福元裕二理事長（事務職員対象）</p> <p>②「産・学・官連携による研究の実際」講師：柳田晃良特任教授ほか（教職員・QSP参画大学対象）【QSP共催】</p> <p>③「西九州大学・短期大学部の組織の改編について」講師：菅原副学長ほか（教職員対象）【FD委員会共催】</p> <p>④「教育的配慮を必要とする多様な学生への支援実際と今後の課題について～ダイバーシティセンターの取り組みから～」講師：川邊浩史ダイバーシティセンター副センター長（九州短期大学共創プラットフォーム教職員対象）【九州短期大学共創プラットフォーム共催】</p>	8
		当該委員会 達成度集計	8/10
		達成度平均点	80/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( )内は責任者    ◎印は優先事項    達成度はx/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
教職センター (センター長)	◎教職センターの運営 【到達目標】 ・教職センターの簡素化に着手する。	・業務の一本化と効率化を目的に、教職センターの業務を精査して検討を行い、教職課程委員会にその機能を統合した。	10
	◎教務委員会等との融合 【到達目標】 ・教職課程委員会との融合を図る。	・業務の一本化と効率化を目的に教職センターの業務を精査して検討を行い、教職課程委員会にその機能を統合した。 また、委員の数を減らした。	10
	○教育実習サポート体制の充実 【到達目標】 ・教職課程委員会において、教育実習の向上を目指し、教育実習事前事後指導及び実習期間中の巡回指導を行う。	・各学科において教育実習事前事後指導ならびに実習時間中の巡回指導を行った。また、各学科の教育実習における履修要件の成績評価をGPA値へ変更した。	10
	○教員採用試験対策の推進 【到達目標】 ・教職課程委員会において、各学科の教員採用試験に向けての取組を通して、合格者増加へと繋げていく。	・佐賀県および福岡県から教職員課の担当者を招き、説明会や対策講座を実施した。年々採用試験の合格者は増加している。	10
		当該委員会 達成度集計	40/40
		達成度平均点	100/100

# 西九州大学 令和6年度アクションプログラムの総括

担当は関係委員会等、( ) 内は責任者    ◎印は優先事項    達成度は x/10

区分及び 担当	令和6年度検討 および実施事項	令和6年度総括	達成度
事務局 総務課 (課長)	<b>基準2. 学生</b> ≪学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応≫ <b>【2-5 学修環境の整備】</b> ①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理 (継続) ・教育目的の達成のために、環境推進委員会等で審議を重ね、より機能的で効果的な教育ができるよう検討及び整備する。  ③バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性 (継続) ・日常のキャンパスライフにおいて、施設・設備による支障が生じないように引き続き改善を行う。	学生の支援、学修環境の整備： 令和5年度末に神埼キャンパス4号館体育館及び佐賀キャンパス体育館に空調設備を整備し、令和6年度から体育・実技等の学修において適宜運用した。佐賀キャンパス体育館に遮熱カーテンを設置した。  施設・設備の利便性向上： 学生支援、留学生支援、障がい学生支援を全学的に統括・推進するダイバーシティセンターを佐賀キャンパスに開設した。神埼キャンパスでの共通教育の対面実施に伴い、学生食堂等への学生の集中を緩和するため、各所にテーブルやイスなどを整備した。	8
	<b>【2-6 学生の意見・要望への対応】</b> ③学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用 (継続) ・学生支援委員会等と協力し、学生からの意見を汲み上げる仕組みを適切に整備する。 ・学生からの意見を、施設・設備及び学修環境の改善につなげる。	令和7年3月4日(火)に学長、副学長、事務局長、教務課長、学生支援課長及び課員1人と、各学科2〜3人ずつの卒業予定者による懇談会を開催した。 学生からの意見・要望について今後情報を共有し、適宜検討することにより施設・設備及び学修環境の改善につなげることが必要。	10
	<b>基準4. 教員・職員</b> ≪教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援≫ <b>【4-1 教学マネジメントの機能性】</b> ③職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性 (継続) ・企画委員会と協力し、教学マネジメントの遂行に必要な職員を適切に配置し、役割を明確にする。	令和7年3月4日(火)に学長、副学長、事務局長、教務課長、学生支援課長及び課員1人と、各学科2〜3人ずつの卒業予定者による懇談会を開催した。 学生からの意見・要望について今後情報を共有し、適宜検討することにより施設・設備及び学修環境の改善につなげることが必要。	8
	<b>【4-4 研究支援】</b> ③研究活動への資源の配分 (継続) ・研究活動の為の外部資金導入について、事務的な支援を行う。	教育関連事項については、関連委員会→全学教授会→学部長会議での審議により意思決定を行っている。各会議には、規定に則り担当職員(部長である教員を含む)が委員または事務担当として出席しており、教学マネジメントを遂行している。今後も教学マネジメント機能の強化に向け、検討を継続する。	8
	<b>基準5 経営・管理と財務</b> ≪経営の規律、理事会、管理 運営、財務基盤と収支、会計≫ <b>【5-4 会計】</b> ①会計処理の適正な実施 (継続) ・学校法人会計基準及び「学校法人永原学園経理規程」等に則り継続的に行い、適正な実施に努める。 ・予算額と大きく乖離がある決算額の科目について、補正予算の編成を行う。	教育関連事項については、関連委員会→全学教授会→学部長会議での審議により意思決定を行っている。各会議には、規定に則り担当職員(部長である教員を含む)が委員または事務担当として出席しており、教学マネジメントを遂行している。今後も教学マネジメント機能の強化に向け、検討を継続する。	10
	②会計監査の体制整備と厳正な実施 (継続) ・監査法人による外部監査、監事による監査及び内部監査を通じて、研究費等の不正使用防止や業務の適正かつ効率的な運営を図る。	①会計処理の適正な実施 (継続) ・学校法人会計基準及び「学校法人永原学園経理規程」等に則り継続的に行い、適正な実施に努めた。 ・補正予算の編成では、過去の科目残高推移の実績を基に編成し大きな乖離は防げた。管理経費で、新学部に関連する経費が一部増えた科目があった。	6
		②会計監査の体制整備と厳正な実施 (継続) ・監事・会計監査人・内部監査部門と連携し公的研究費のモニタリングの在り方について協議し、業務の適正な運営を図った。	8
			8
			8
			8

<p>事務局 教務課 (課長)</p>	<p>基準2. 学生 《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》 【2-5 学修環境の整備】 ①校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理（継続） ・各キャンパスにおける校地及び校舎の整備に伴う教室等の適切な運営・保守管理</p>	<p>ダイバーシティセンターならびに学生支援課と連携しながら非常勤講師へ配慮希望学生の情報提供を行った。また、配慮希望学生への要望に応じて支援を進めた。 一方で、外国人留学生を対象としたパソコンの貸出や翻訳機器を準備し学修環境を支援した。</p>	<p>8</p>
<p>事務局 学生支援課 (課長)</p>	<p>基準2. 学生 《学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応》 【2-6 学生の意見・要望への対応】 ②心身に関する健康相談、修学支援新制度における経済的支援など学生生活に関して、学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用 ・健康相談の指導体制充実（UPI テスト実施及び事後指導）  ・JASSO 給付奨学金では、支援対象が 拡充されたことを周知し、経済的支援の必要な学生へ支援をしていく。  ・学生生活実態調査の実施と課題の抽出、解決に向けた検討していく。</p>	<p>・令和6年度は前・後期webで実施、前期回答率84%、後期回答率77.3%となり、多くの学生の健康状態を学生相談室で確認し、心身面での支援をおこなった。  ・永原学園奨学金、JASSO 奨学金共に滞りなく必要な学生への支援がおこなえた。令和7年度から始まる多子世帯への支援についても周知できた。  ・令和6年度学生生活実態調査の分析結果は教授会等で共有し、学科内で課題解決に役立ててもらった。</p>	<p>9  9  9</p>
		<p>当該委員会 達成度集計</p>	<p>93/110</p>
		<p>達成度平均点</p>	<p>85/100</p>

## 総合評価

各セクションの評価は以下のとおりである。

委員会等名	評価点	達成度 (%)
FD委員会	45/60	75
大学院FD委員会	16/20	80
大学院研究科	60/70	86
健康栄養学科	86/110	78
社会福祉学科	185/220	84
スポーツ健康福祉学科	169/210	80
リハビリテーション学科	42/50	84
子ども学科	195/200	98
心理カウンセリング学科	190/200	95
看護学科	122/140	87
デジタル社会共創学環	22/30	73
教務委員会	83/100	83
共通教育運営委員会	40/40	100
教職課程委員会	32/40	80
学生支援委員会	84/110	76
入試広報委員会	21/30	70
図書館	42/50	84
リカレント教育・研究推進本部	37/40	93
国際交流センター	40/40	100
情報メディアセンター	18/20	90
ダイバーシティセンター	33/40	83
SD委員会	8/10	80
教職センター	40/40	100
事務局	93/110	85
平均		85

各セクションの達成度の平均は 85%である。本学自己点検・評価運営委員会は、令和6年度の自己評価を「順調に進んでいる」とする。

なお、令和6年度に達成度が70%未満にとどまった委員会等はなかったが、項目別では70%に満たない項目もあるため、次年度においても引き続き改善を行うことを勧告する。